OpenShift Container Platform 4.13

Web コンソール

OpenShift Container Platform Web コンソールのスタートガイド

Last Updated: 2024-07-22

OpenShift Container Platform 4.13 Web コンソール

OpenShift Container Platform Web コンソールのスタートガイド

法律上の通知

概要

このドキュメントでは、OpenShift Container Platform Web コンソールにアクセスしてカスタマイズする手順を説明します。

目次

第1章 WEB コンソールの概要

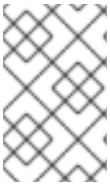
Red Hat OpenShift Container Platform Web コンソールは、プロジェクトデータを視覚化し、管理およびトラブルシューティングタスクを実行するグラフィカルユーザーインターフェイスを提供します。Web コンソールは、openshift-console プロジェクトのコントロールプレーンノードで Pod として実行されます。これは **console-operator** Pod によって管理されます。**Administrator** および **Developer** パースペクティブの両方がサポートされます。

Administrator および **Developer** パースペクティブの両方で、OpenShift Container Platform のクイックスタートチュートリアルを作成できます。クイックスタートは、ユーザータスクに関するガイド付きチュートリアルで、アプリケーション、Operator、またはその他の製品オファリングを理解するのに役立ちます。

1.1. WEB コンソールの ADMINISTRATOR パースペクティブについて

Administrator パースペクティブでは、クラスターインベントリー、容量、全般的および特定の使用に関する情報、および重要なイベントのストリームを表示できます。これらはすべて、プランニングおよびトラブルシューティングの作業を簡素化するのに役立ちます。プロジェクト管理者とクラスター管理者の両方が **Administrator** パースペクティブを表示できます。

OpenShift Container Platform 4.7 以降の場合、クラスター管理者は Web Terminal Operator を使用して組み込みのコマンドラインターミナルインスタンスを開くこともできます。



注記

表示されるデフォルトの Web コンソールパースペクティブは、ユーザーのロールによって異なります。ユーザーが管理者として認識される場合、**Administrator** パースペクティブがデフォルトで表示されます。

Administrator パースペクティブは、以下を実行する機能などの管理者のユースケースに固有のワークフローを提供します。

- ワークロード、ストレージ、ネットワーク、およびクラスター設定を管理する。
- Operator Hub を使用して Operator をインストールし、管理する。
- ユーザーにログインを許可し、ロールおよびロールバインディングを使用してユーザーアクセスを管理できるようにするアイデンティティープロバイダーを追加する。
- クラスターの更新、部分的なクラスターの更新、クラスター Operator、カスタムリソース定義 (CRD)、ロールバインディング、リソースクォータなど、さまざまな高度な設定を表示および管理する。
- メトリクス、アラート、モニタリングダッシュボードなどのモニタリング機能にアクセスし、管理する。
- クラスターについてのロギング、メトリック、および高ステータスの情報を表示し、管理する。
- OpenShift Container Platform の **Administrator** パースペクティブに関連するアプリケーション、コンポーネント、およびサービスと視覚的に対話する。

1.2. WEB コンソールの DEVELOPER パースペクティブ

Developer パースペクティブは、アプリケーション、サービス、データベースをデプロイするために組み込まれたさまざまな手法を提供します。**Developer** パースペクティブでは、以下を実行できます。

- コンポーネントでのロールアウトのローリングおよび再作成をリアルタイムに可視化する。
- アプリケーションのステータス、リソースの使用状況、プロジェクトイベントのストリーミング、およびクォータの消費を表示する。
- プロジェクトを他のユーザーと共有する。
- プロジェクトで Prometheus Query Language (PromQL) クエリーを実行し、グラフに可視化されたメトリックを検査して、アプリケーションに関する問題のトラブルシューティングを行う。メトリックにより、クラスターの状態と、モニターしているユーザー定義のワークロードに関する情報が提供されます。

OpenShift Container Platform 4.7 以降の場合、クラスター管理者は Web コンソールで組み込みのコマンドラインターミナルインスタンスを開くこともできます。

注記

表示されるデフォルトの Web コンソールパースペクティブは、ユーザーのロールによって異なります。**Developer** パースペクティブは、ユーザーが開発者として認識される場合、デフォルトで表示されます。

Developer パースペクティブは、以下を実行する機能を含む、開発者のユースケースに固有のワークフローを提供します。

- 既存のコードベース、イメージ、およびコンテナーファイルをインポートして、OpenShift Container Platform でアプリケーションを作成し、デプロイします。
- アプリケーション、コンポーネント、およびプロジェクト内のこれらに関連付けられたサービスと視覚的に対話し、それらのデプロイメントとビルドステータスを監視します。
- アプリケーション内のコンポーネントをグループ化し、アプリケーション内およびアプリケーション間でコンポーネントを接続します。
- Serverless 機能 (テクノロジープレビュー) を統合します。
- Eclipse Che を使用してアプリケーションコードを編集するためのワークスペースを作成します。

Topology ビューを使用して、プロジェクトのアプリケーション、コンポーネント、およびワークロードを表示できます。プロジェクトにワークロードがない場合、**Topology** ビューにはワークロードを作成またはインポートするためのリンクがいくつか表示されます。**Quick Search** を使用してコンポーネントを直接インポートすることもできます。

関連情報

Developer パースペクティブで **Topology** ビューを使用する方法の詳細は、Topology ビューを使用したアプリケーション設定の表示 を参照してください。

1.3. パースペクティブへのアクセス

次のように、Web コンソールから **Administrator** および **Developer** パースペクティブにアクセスできます。

前提条件

パースペクティブにアクセスするには、Web コンソールにログインしていることを確認してください。デフォルトのパースペクティブは、ユーザーの権限によって自動的に決定されます。すべてのプロジェクトへのアクセス権を持つユーザーには **Administrator** パースペクティブが選択され、自分のプロジェクトへのアクセスが制限されているユーザーには **Developer** パースペクティブが選択されます。

関連情報

パースペクティブの変更の詳細は、ユーザー設定の追加 を参照してください。

手順

1. パースペクティブスイッチャーを使用して、**Administrator** パースペクティブまたは **Developer** パースペクティブに切り替えます。
2. **Project** ドロップダウンリストから既存のプロジェクトを選択します。このドロップダウンから新しいプロジェクトを作成することもできます。

注記

パースペクティブスイッチャーは、**cluster-admin** としてのみ使用できます。

関連情報

- クラスター管理者について
- **Administrator** パースペクティブの概要
- **Developer** パースペクティブを使用して OpenShift Container Platform でアプリケーションを作成し、デプロイする
- **Topology** ビューを使用してプロジェクトにアプリケーションを表示し、デプロイメントのステータスを確認し、それらと対話する
- クラスター情報の表示
- Web コンソールの設定
- Web コンソールのカスタマイズ
- Web 端末の使用
- クイックスタートチュートリアルの作成
- Web コンソールの無効化

第2章 WEB コンソールへのアクセス

OpenShift Container Platform Web コンソールは、Web ブラウザーからアクセスできるユーザーインターフェイスです。開発者は Web コンソールを使用してプロジェクトのコンテンツを視覚的に把握し、参照し、管理することができます。

2.1. 前提条件

- Web コンソールを使用するために JavaScript が有効にされている必要があります。WebSocket をサポートする Web ブラウザーを使用することが最も推奨されます。
- OpenShift Container Platform 4.x のテスト済みインテグレーション のページを確認してから、クラスターのサポートされるインフラストラクチャーを作成します。

2.2. WEB コンソールの理解および WEB コンソールへのアクセス

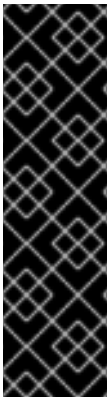
Web コンソールはマスター上で Pod として実行されます。Web コンソールを実行するために必要な静的アセットは Pod によって提供されます。OpenShift Container Platform が **openshift-install create cluster** を使用して正常にインストールされた後に、Web コンソールの URL およびインストールされたクラスターのログイン認証情報を、インストールプログラムの CLI 出力で確認します。以下に例を示します。

出力例

```
INFO Install complete!
INFO Run 'export KUBECONFIG=<your working directory>/auth/kubeconfig' to manage the cluster
with 'oc', the OpenShift CLI.
INFO The cluster is ready when 'oc login -u kubeadmin -p <provided>' succeeds (wait a few minutes).
INFO Access the OpenShift web-console here: https://console-openshift-
console.apps.demo1.openshift4-beta-abcorp.com
INFO Login to the console with user: kubeadmin, password: <provided>
```

これらの詳細を使用してログインし、Web コンソールにアクセスします。

インストールしていない既存のクラスターの場合、**oc whoami --show-console** を使用して Web コンソール URL を表示します。



重要

dir パラメーターは、マニフェストファイル、ISO イメージ、および **auth** ディレクトリーを保存する **assets** ディレクトリーを指定します。**auth** ディレクトリーには、**kubeadmin-password** および **kubeconfig** ファイルが保存されます。**kubeadmin** ユーザーとして、設定 **export KUBECONFIG=<install_directory>/auth/kubeconfig** で **kubeconfig** ファイルを使用して、クラスターにアクセスできます。**kubeconfig** は生成された ISO イメージに固有であるため、**kubeconfig** が設定されていて、**oc** コマンドが失敗した場合は、システムが生成された ISO イメージで起動しなかった可能性があります。デバッグを実行するには、ブートストラッププロセス中に、**kubeadmin-password** ファイルの内容を使用して、**core** ユーザーとしてコンソールにログインできます。

関連情報

- Web コンソールで機能セットの有効化

第3章 OPENSHIFT CONTAINER PLATFORM DASHBOARD を使用したクラスター情報の取得

OpenShift Container Platform の Web コンソールは、クラスターに関する概要情報を取得します。

3.1. OPENSHIFT CONTAINER PLATFORM ダッシュボードページについて

OpenShift Container Platform Web コンソールから **Home → Overview** に移動して、クラスターに関する概要情報を取得する OpenShift Container Platform ダッシュボードにアクセスします。

OpenShift Container Platform ダッシュボードは、個別のダッシュボードカードでキャプチャーされるさまざまなクラスター情報を提供します。

OpenShift Container Platform ダッシュボードは以下のカードで設定されます。

- **Details** は、クラスターの詳細情報の概要を表示します。
  ステータスには、**ok**、**error**、**warning**、**in progress**、および **unknown** が含まれます。リソースでは、カスタムのステータス名を追加できます。
  - クラスター
  - プロバイダー
  - バージョン
- **Cluster Inventory** は、リソースの数および関連付けられたステータスの詳細を表示します。これは、問題の解決に介入が必要な場合に役立ちます。以下についての情報が含まれます。
  - ノード数
  - Pod 数
  - 永続ストレージボリューム要求
  - 状態別にリスト表示されたクラスター内のベアメタルホスト (**metal3** 環境でのみ利用可能)
- **Status** は、管理者がクラスターリソースの消費状況を把握するのに役立ちます。リソースをクリックし、指定されたクラスターリソース (CPU、メモリー、またはストレージ) の最大量を消費する Pod およびノードを一覧表示する詳細ページに切り替えます。
- **Cluster Utilization** には、指定期間におけるさまざまなリソースの容量が表示されます。これは、リソース消費量が多い場合に、管理者がその規模と頻度を把握するのに役立ちます。次の情報が表示されます。
  - CPU 時間
  - メモリー割り当て
  - 消費されたストレージ
  - 消費されたネットワークリソース
  - Pod 数
- **Activity** には、Pod の作成や別のホストへの仮想マシンの移行など、クラスター内の最近のアクティビティーに関連するメッセージがリスト表示されます。

3.2. リソースおよびプロジェクトの制限とクォータの認識

Web コンソールの **Developer** パースペクティブの **Topology** ビューで、利用可能なリソースのグラフィカル表示を使用できます。

リソースの制限やクォータに到達したことを示すメッセージがリソースにある場合は、リソース名の周囲に黄色の境界線が表示されます。メッセージを表示するには、リソースをクリックしてサイドパネルを開きます。**Topology** ビューがズームアウトされている場合、黄色の点はメッセージがあることを示します。

View Shortcuts メニューから **List View** を使用すると、リソースのリストが表示されます。**Alerts** 列は、メッセージがあるかどうかを示します。

第4章 ユーザー設定の追加

要件に合わせてプロファイルのデフォルト設定を変更できます。デフォルトのプロジェクト、トポロジービュー (グラフまたはリスト)、編集メディア (フォームまたは YAML)、言語設定、およびリソースタイプを設定できます。

ユーザー設定への変更は自動的に保存されます。

4.1. ユーザー設定

クラスターのデフォルトのユーザー設定を指定できます。

手順

1. ログイン認証情報を使用して OpenShift Container Platform Web コンソールにログインします。
2. マストヘッドを使用して、ユーザープロファイルのユーザー名とパスワードにアクセスします。
3. **General** セクションで、以下を実行します。
   a. **Theme** フィールドで、作業するテーマを設定できます。ログインするたびに、選択したテーマがコンソールのデフォルトとして設定されます。
   b. **perspective** フィールドで、ログインするデフォルトのパースペクティブを設定できます。必要に応じて **Administrator** または **Developer** パースペクティブを選択できます。パースペクティブが選択されていない場合には、最後にアクセスしたパースペクティブにログインします。
   c. **Project** フィールドで、作業するプロジェクトを選択します。ログインするたびに、そのプロジェクトがコンソールのデフォルトとして設定されます。
   d. **Topology** フィールドで、トポロジービューのデフォルトをグラフビューか、リストビューに設定できます。選択されていない場合は、コンソールは使用した最後のビューにデフォルト設定されます。
   e. **Create/Edit resource method** フィールドで、リソースの作成または編集設定を指定できます。フォームおよび YAML オプションの両方が利用可能な場合には、選択した内容にコンソールはデフォルト設定されます。
4. ブラウザーのデフォルトの言語設定を使用するには、**言語**セクションで、**Default browser language** を選択します。それ以外の場合は、コンソールに使用する言語を選択します。
5. **Notifications** セクションでは、**Overview** ページまたは通知ドロワーで、特定のプロジェクトに対してユーザーが作成した通知の表示を切り替えることができます。
6. **アプリケーション** セクションで:
   a. デフォルトの **リソースタイプ** を表示できます。たとえば、OpenShift Serverless Operator がインストールされている場合、デフォルトのリソースタイプは **Serverless Deployment** です。それ以外の場合、デフォルトのリソースタイプは **Deployment** です。
   b. リソース **タイプ** フィールドから、別のリソースタイプをデフォルトのリソースタイプとして選択できます。

第5章 OPENSHIFT CONTAINER PLATFORM の WEB コンソールの設定

OpenShift Container Platform の Web コンソールを変更して、ログアウトリダイレクト URL を設定したり、クイックスタートチュートリアルを無効にしたりできます。

5.1. 前提条件

- OpenShift Container Platform クラスターをデプロイします。

5.2. WEB コンソールの設定

console.config.openshift.io リソースを編集して Web コンソールを設定できます。

- **console.config.openshift.io** リソースを編集します。

```
$ oc edit console.config.openshift.io cluster
```

以下の例は、コンソールのリソース定義のサンプルを示しています。

```
apiVersion: config.openshift.io/v1
kind: Console
metadata:
  name: cluster
spec:
  authentication:
    logoutRedirect: "" (1)
status:
  consoleURL: "" (2)
```

(1) ユーザーが Web コンソールからログアウトする際にロードするページの URL を指定します。値を指定しない場合、ユーザーは Web コンソールのログインページに戻ります。**logoutRedirect** URL を指定することにより、ユーザーはアイデンティティープロバイダー経由でシングルログアウト (SLO) を実行し、シングルサインオンセッションを破棄することができます。

(2) Web コンソール URL。これをカスタム値に更新するには、**Web コンソール URL のカスタマイズ**を参照してください。

5.3. WEB コンソールでのクイックスタートの無効化

Web コンソールの **Administrator** パースペクティブを使用して、1 つ以上のクイックスタートを無効にできます。

前提条件

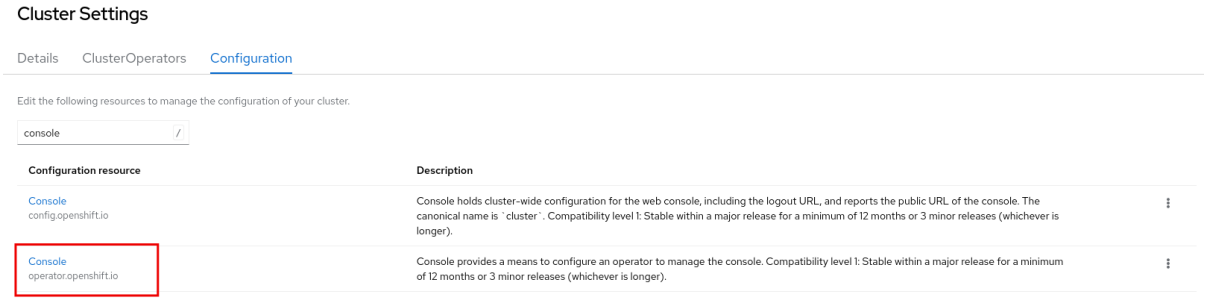
- クラスター管理者の権限があり、Web コンソールにログインしている。

手順

1. **Administrator** パースペクティブで、**Administration → Cluster Settings** に移動します。

2. **Cluster Settings** ページで、**Configuration** タブをクリックします。

3. **Configuration** ページで、**operator.openshift.io** と説明が記載されている **Console** 設定リソースをクリックします。



4. **Action** ドロップダウンリストから **Customize** を選択し、**Cluster configuration** ページを開きます。

5. **General** タブの **Quick starts** セクションで、**Enabled** リストまたは **Disabled** リストから項目を選択し、矢印ボタンを使用して他方のリストに移動します。

    - 1 つのクイックスタートを有効または無効にするには、該当するクイックスタートをクリックし、一重矢印ボタンを使用してクイックスタートを適切なリストに移動します。

    - 複数のクイックスタートをまとめて有効または無効にするには、Ctrl を押して移動するクイックスタートをクリックします。次に、一重矢印ボタンを使用してクイックスタートを適切なリストに移動します。

    - すべてのクイックスタートをまとめて有効または無効にするには、二重矢印ボタンをクリックして、すべてのクイックスタートを適切なリストに移動します。

第6章 OPENSHIFT CONTAINER PLATFORM の WEB コンソールのカスタマイズ

OpenShift Container Platform の Web コンソールをカスタマイズして、カスタムロゴ、製品名、リンク、通知、およびコマンドラインのダウンロードを設定できます。これは、Web コンソールを企業や政府の特定要件を満たすように調整する必要がある場合にとくに役立ちます。

6.1. カスタムロゴおよび製品名の追加

カスタムロゴまたはカスタム製品名を追加することで、カスタムブランディングを作成できます。これらの設定は相互に独立しているため、両方またはいずれかを設定できます。

前提条件

- 管理者権限を持っている。
- 使用するロゴのファイルを作成します。ロゴは、GIF、JPG、PNG、または SVG を含む共通のイメージ形式のファイルであり、**60px** の **max-height** に制限されます。**ConfigMap** オブジェクトサイズの制約により、イメージサイズは 1 MB を超えてはなりません。

手順

1. ロゴファイルを **openshift-config** namespace の設定マップにインポートします。

```
$ oc create configmap console-custom-logo --from-file /path/to/console-custom-logo.png -n
openshift-config
```

ヒント

または、以下の YAML を適用して設定マップを作成できます。

```
apiVersion: v1
kind: ConfigMap
metadata:
  name: console-custom-logo
  namespace: openshift-config
binaryData:
  console-custom-logo.png: <base64-encoded_logo> ... 1
```

1 有効な base64 でエンコードされたロゴを指定します。

2. Web コンソールの Operator 設定を編集して、**customLogoFile** および **customProductName** を組み込みます。

```
$ oc edit consoles.operator.openshift.io cluster
```

```
apiVersion: operator.openshift.io/v1
kind: Console
metadata:
  name: cluster
spec:
  customization:
```

```
    customLogoFile:
      key: console-custom-logo.png
      name: console-custom-logo
    customProductName: My Console
```

Operator 設定が更新されると、カスタムロゴ設定マップをコンソール namespace に同期し、これをコンソール Pod にマウントし、再デプロイします。

3. 正常に実行されたかどうかを確認します。問題がある場合は、コンソールクラスター Operator は **Degraded** ステータスを報告し、コンソール Operator 設定も **CustomLogoDegraded** ステータスを **KeyOrFilenameInvalid** または **NoImageProvided** などの理由と共に報告します。**clusteroperator** を確認するには、以下を実行します。

```
$ oc get clusteroperator console -o yaml
```

コンソール Operator 設定を確認するには、以下を実行します。

```
$ oc get consoles.operator.openshift.io -o yaml
```

6.2. WEB コンソールでのカスタムリンクの作成

前提条件

- 管理者権限を持っている。

手順

1. **Administration** → **Custom Resource Definitions**から、**ConsoleLink** をクリックします。
2. **Instances** タブを選択します。
3. **Create Console Link** をクリックし、ファイルを編集します。

```
apiVersion: console.openshift.io/v1
kind: ConsoleLink
metadata:
  name: example
spec:
  href: 'https://www.example.com'
  location: HelpMenu (1)
  text: Link 1
```

(1) 有効な場所の設定は、**HelpMenu**、**UserMenu**、**ApplicationMenu**、および **NamespaceDashboard** です。

カスタムリンクがすべての namespace に表示されるようにするには、以下の例に従います。

```
apiVersion: console.openshift.io/v1
kind: ConsoleLink
metadata:
  name: namespaced-dashboard-link-for-all-namespaces
spec:
```

```
  href: 'https://www.example.com'
  location: NamespaceDashboard
  text: This appears in all namespaces
```

カスタムリンクが一部の namespace のみに表示されるようにするには、以下の例に従います。

```
apiVersion: console.openshift.io/v1
kind: ConsoleLink
metadata:
  name: namespaced-dashboard-for-some-namespaces
spec:
  href: 'https://www.example.com'
  location: NamespaceDashboard
  # This text will appear in a box called "Launcher" under "namespace" or "project" in the web
console
  text: Custom Link Text
  namespaceDashboard:
    namespaces:
    # for these specific namespaces
    - my-namespace
    - your-namespace
    - other-namespace
```

カスタムリンクがアプリケーションメニューに表示されるようにするには、以下の例に従います。

```
apiVersion: console.openshift.io/v1
kind: ConsoleLink
metadata:
  name: application-menu-link-1
spec:
  href: 'https://www.example.com'
  location: ApplicationMenu
  text: Link 1
  applicationMenu:
    section: My New Section
    # image that is 24x24 in size
    imageURL: https://via.placeholder.com/24
```

4. **Save** をクリックして変更を適用します。

6.3. コンソールルートのカスタマイズ

console および **downloads** ルートについて、カスタムルート機能が **ingress** 設定ルート設定 API を使用します。**console** カスタムルートが **ingress** 設定と **console-operator** 設定の両方に設定されている場合、新規の **ingress** 設定のカスタムルート設定が優先されます。**console-operator** 設定を使用したルート設定は非推奨になりました。

6.3.1. コンソールルートのカスタマイズ

クラスター **Ingress** 設定の **spec.componentRoutes** フィールドにカスタムホスト名および TLS 証明書を設定して、コンソールルートをカスタマイズできます。

前提条件

- 管理者権限のあるユーザーでクラスターにログインしている。
- **openshift-config** namespace に TLS 証明書およびキーを含めたシークレットを作成している。これは、カスタムホスト名の接尾辞のドメインがクラスターのドメイン接尾辞に一致しない場合に必要です。接尾辞が一致する場合には、シークレットはオプションです。

  ヒント

  oc create secret tls コマンドを使用して TLS シークレットを作成できます。

手順

1. クラスター **Ingress** 設定を編集します。

```
$ oc edit ingress.config.openshift.io cluster
```

2. カスタムのホスト名を設定し、オプションで提供する証明書とキーを設定します。

```
apiVersion: config.openshift.io/v1
kind: Ingress
metadata:
  name: cluster
spec:
  componentRoutes:
    - name: console
      namespace: openshift-console
      hostname: <custom_hostname> 1
      servingCertKeyPairSecret:
        name: <secret_name> 2
```

1. カスタムホスト名。
2. TLS 証明書 (**tls.crt**) およびキー (**tls.key**) を含む **openshift-config** namespace のシークレットへの参照。これは、カスタムホスト名の接尾辞のドメインがクラスターのドメイン接尾辞に一致しない場合に必要です。接尾辞が一致する場合には、シークレットはオプションです。

3. 変更を適用するためにファイルを保存します。

6.3.2. ダウンロードルートのカスタマイズ

クラスター **Ingress** 設定の **spec.componentRoutes** フィールドにカスタムホスト名および TLS 証明書を設定して、ダウンロードルートをカスタマイズできます。

前提条件

- 管理者権限のあるユーザーでクラスターにログインしている。
- **openshift-config** namespace に TLS 証明書およびキーを含めたシークレットを作成している。これは、カスタムホスト名の接尾辞のドメインがクラスターのドメイン接尾辞に一致しない場合に必要です。接尾辞が一致する場合には、シークレットはオプションです。

ヒント

oc create secret tls コマンドを使用して TLS シークレットを作成できます。

手順

1. クラスター **Ingress** 設定を編集します。

```
$ oc edit ingress.config.openshift.io cluster
```

2. カスタムのホスト名を設定し、オプションで提供する証明書とキーを設定します。

```
apiVersion: config.openshift.io/v1
kind: Ingress
metadata:
  name: cluster
spec:
  componentRoutes:
    - name: downloads
      namespace: openshift-console
      hostname: <custom_hostname> 1
      servingCertKeyPairSecret:
        name: <secret_name> 2
```

1. カスタムホスト名。
2. TLS 証明書 (**tls.crt**) およびキー (**tls.key**) を含む **openshift-config** namespace のシークレットへの参照。これは、カスタムホスト名の接尾辞のドメインがクラスターのドメイン接尾辞に一致しない場合に必要です。接尾辞が一致する場合には、シークレットはオプションです。

3. 変更を適用するためにファイルを保存します。

6.4. ログインページのカスタマイズ

サービス利用規約情報をカスタムログインページを使用して作成します。カスタムログインページは、GitHub や Google などのサードパーティーログインプロバイダーを使用している場合にも、ユーザーが信頼し、予想できるブランドのページを提示して、その後にユーザーを認証プロバイダーにリダイレクトする際に役立ちます。また、認証プロセス中にカスタムエラーページをレンダリングすることもできます。

注記

エラーテンプレートのカスタマイズは、要求ヘッダーや OIDC ベースの IDP などのリダイレクトを使用するアイデンティティープロバイダー (IDP) に限定されます。LDAP や htpasswd などのダイレクトパスワード認証を使用する IDP にはこれによる影響がありません。

前提条件

- 管理者権限を持っている。

手順

1. 以下のコマンドを実行して、変更可能なテンプレートを作成します。

```
$ oc adm create-login-template > login.html
```

```
$ oc adm create-provider-selection-template > providers.html
```

```
$ oc adm create-error-template > errors.html
```

2. シークレットを作成します。

```
$ oc create secret generic login-template --from-file=login.html -n openshift-config
```

```
$ oc create secret generic providers-template --from-file=providers.html -n openshift-config
```

```
$ oc create secret generic error-template --from-file=errors.html -n openshift-config
```

3. 以下を実行します。

```
$ oc edit oauths cluster
```

4. 仕様を更新します。

```
apiVersion: config.openshift.io/v1
kind: OAuth
metadata:
  name: cluster
# ...
spec:
  templates:
    error:
      name: error-template
    login:
      name: login-template
    providerSelection:
      name: providers-template
```

oc explain oauths.spec.templates を実行して、オプションを把握します。

6.5. 外部ログリンクのテンプレートの定義

ログの参照に役立つサービスに接続しているものの、特定の方法で URL を生成する必要がある場合は、リンクのテンプレートを定義できます。

前提条件

- 管理者権限を持っている。

手順

1. **Administration → Custom Resource Definitions**から、**ConsoleExternalLogLink** をクリックします。

2. **Instances** タブを選択します。

3. **Create Console External Log Link**をクリックし、ファイルを編集します。

```
apiVersion: console.openshift.io/v1
kind: ConsoleExternalLogLink
metadata:
  name: example
spec:
  hrefTemplate: >-
    https://example.com/logs?
resourceName=${resourceName}&containerName=${containerName}&resourceNamespace=$
{resourceNamespace}&podLabels=${podLabels}
  text: Example Logs
```

6.6. カスタム通知バナーの作成

前提条件

- 管理者権限を持っている。

手順

1. **Administration** → **Custom Resource Definitions**から、**ConsoleNotification** をクリックします。

2. **Instances** タブを選択します。

3. **Create Console Notification** をクリックし、ファイルを編集します。

```
apiVersion: console.openshift.io/v1
kind: ConsoleNotification
metadata:
  name: example
spec:
  text: This is an example notification message with an optional link.
  location: BannerTop (1)
  link:
    href: 'https://www.example.com'
    text: Optional link text
  color: '#fff'
  backgroundColor: '#0088ce'
```

(1) 有効な場所の設定は、**BannerTop**、**BannerBottom**、および **BannerTopBottom** です。

4. **Create** をクリックして変更を適用します。

6.7. CLI ダウンロードのカスタマイズ

ファイルパッケージを直接ポイントしたり、パッケージを提供する外部ページをポイントできるカスタムのリンクテキストおよび URL を使用して、CLI をダウンロードするリンクを設定できます。

前提条件

- 管理者権限を持っている。

手順

1. **Administration → Custom Resource Definitions**に移動します。
2. カスタムリソース定義 (CRD) のリストから **ConsoleCLIDownload** を選択します。
3. **YAML** タブをクリックし、編集を行います。

```
apiVersion: console.openshift.io/v1
kind: ConsoleCLIDownload
metadata:
  name: example-cli-download-links
spec:
  description: |
    This is an example of download links
  displayName: example
  links:
  - href: 'https://www.example.com/public/example.tar'
    text: example for linux
  - href: 'https://www.example.com/public/example.mac.zip'
    text: example for mac
  - href: 'https://www.example.com/public/example.win.zip'
    text: example for windows
```

4. **Save** ボタンをクリックします。

6.8. YAML サンプルの KUBERNETES リソースへの追加

YAML サンプルはいつでも Kubernetes リソースに動的に追加できます。

前提条件

- クラスター管理者の権限があること。

手順

1. **Administration → Custom Resource Definitions**から、**ConsoleYAMLSample** をクリックします。
2. **YAML** をクリックし、ファイルを編集します。

```
apiVersion: console.openshift.io/v1
kind: ConsoleYAMLSample
metadata:
  name: example
spec:
  targetResource:
    apiVersion: batch/v1
    kind: Job
  title: Example Job
  description: An example Job YAML sample
```

```
yaml: |
  apiVersion: batch/v1
  kind: Job
  metadata:
    name: countdown
  spec:
    template:
      metadata:
        name: countdown
      spec:
        containers:
        - name: counter
          image: centos:7
          command:
          - "bin/bash"
          - "-c"
          - "for i in 9 8 7 6 5 4 3 2 1 ; do echo $i ; done"
        restartPolicy: Never
```

spec.snippet を使用して、YAML サンプルが完全な YAML リソース定義ではなく、ユーザーのカーソルで既存の YAML ドキュメントに挿入できる断片を示します。

3. **Save** をクリックします。

6.9. ユーザーパースペクティブのカスタマイズ

OpenShift Container Platform Web コンソールは、デフォルトで **Administrator** と **Developer** の 2 つのパースペクティブを提供します。インストールされているコンソールプラグインによっては、より多くのパースペクティブを使用できる場合があります。クラスター管理者は、すべてのユーザーまたは特定のユーザーロールのパースペクティブを表示または非表示にすることができます。パースペクティブをカスタマイズすると、ユーザーは自分のロールとタスクに適用できるパースペクティブのみを表示できるようになります。たとえば、権限のないユーザーがクラスターリソース、ユーザー、およびプロジェクトを管理できないように、**Administrator** パースペクティブを非表示にすることができます。同様に、開発者ロールを持つユーザーに **Developer** パースペクティブを表示して、アプリケーションを作成、デプロイ、および監視できるようにすることができます。

ロールベースのアクセス制御 (RBAC) に基づいて、ユーザーのパースペクティブの表示をカスタマイズすることもできます。たとえば、特定の権限を必要とする監視目的でパースペクティブをカスタマイズする場合、パースペクティブが必要な権限を持つユーザーにのみ表示されるように定義できます。

各パースペクティブには、YAML ビューで編集できる次の必須パラメーターが含まれています。

- **id**: 表示または非表示にするパースペクティブの ID を定義します
- **visibility**: パースペクティブの状態と、必要に応じてアクセスレビューチェックを定義します。
- **state**: パースペクティブが有効か、無効か、アクセスレビューチェックが必要かを定義します

注記

デフォルトでは、すべてのパースペクティブが有効になっています。ユーザーパースペクティブをカスタマイズすると、その変更はクラスター全体に適用されます。

6.9.1. YAML ビューを使用したパースペクティブのカスタマイズ

前提条件

- 管理者権限を持っている。

手順

1. **Administrator** パースペクティブで、**Administration → Cluster Settings** に移動します。
2. **Configuration** タブを選択し、**Console (operator.openshift.io)** リソースをクリックします。
3. **YAML** タブをクリックして、カスタマイズを行います。
   a. パースペクティブを有効または無効にするには、**Add user perspectives** のスニペットを挿入し、必要に応じて YAML コードを編集します。

```
apiVersion: operator.openshift.io/v1
kind: Console
metadata:
  name: cluster
spec:
  customization:
    perspectives:
      - id: admin
        visibility:
          state: Enabled
      - id: dev
        visibility:
          state: Enabled
```

   b. RBAC 権限に基づいてパースペクティブを非表示にするには、**ユーザーパースペクティブを非表示** にするためのスニペットを挿入し、必要に応じて YAML コードを編集します。

```
apiVersion: operator.openshift.io/v1
kind: Console
metadata:
  name: cluster
spec:
  customization:
    perspectives:
      - id: admin
        requiresAccessReview:
          - group: rbac.authorization.k8s.io
            resource: clusterroles
            verb: list
      - id: dev
        state: Enabled
```

   c. ニーズに基づいてパースペクティブをカスタマイズするには、独自の YAML スニペットを作成します。

```
apiVersion: operator.openshift.io/v1
kind: Console
metadata:
  name: cluster
spec:
  customization:
```

```
perspectives:
  - id: admin
    visibility:
      state: AccessReview
      accessReview:
        missing:
          - resource: deployment
            verb: list
        required:
          - resource: namespaces
            verb: list
  - id: dev
    visibility:
      state: Enabled
```

4. **Save** をクリックします。

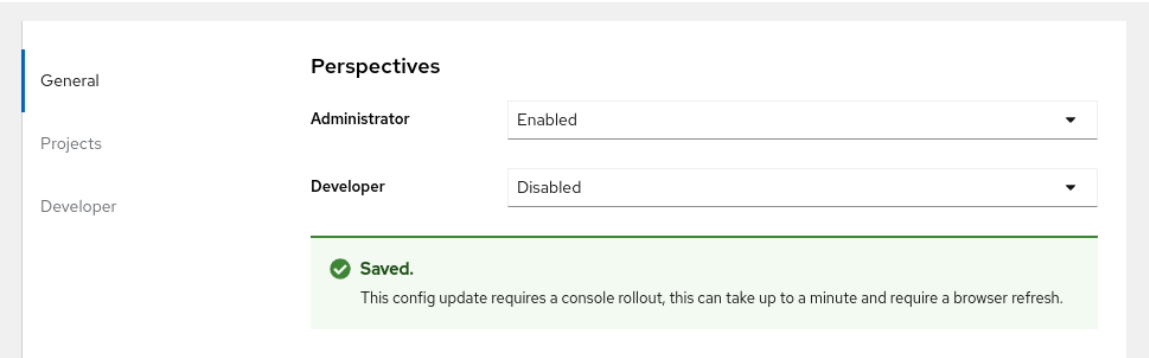
6.9.2. フォームビューを使用したパースペクティブのカスタマイズ

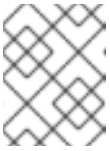
前提条件

- 管理者権限を持っている。

手順

1. **Administrator** パースペクティブで、**Administration → Cluster Settings** に移動します。
2. **Configuration** タブを選択し、**Console (operator.openshift.io)** リソースをクリックします。
3. ページの右側にある **Actions → Customize** をクリックします。
4. **General** 設定で、ドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択して、パースペクティブをカスタマイズします。
   - **Enabled**: すべてのユーザーに対してパースペクティブを有効にします
   - **Only visible for privileged users**: すべての namespace を一覧表示できるユーザーのパースペクティブを有効にします。
   - **Only visible for unprivileged users**: すべての namespace を一覧表示できないユーザーのパースペクティブを有効にします。
   - **Disabled**: すべてのユーザーに対してパースペクティブを無効にします
   変更が保存されたことを確認する通知が開きます。





注記

ユーザーパースペクティブをカスタマイズすると、変更は自動的に保存され、ブラウザーの更新後に有効になります。

6.10. 開発者カタログとサブカタログのカスタマイズ

クラスター管理者は、Developer カタログまたはそのサブカタログを編成および管理できます。サブカタログタイプを有効または無効にするか、開発者カタログ全体を無効にすることができます。

developerCatalog.types オブジェクトには、YAML ビューで使用するためにスニペットで定義する必要がある次のパラメーターが含まれています。

- **state**: 開発者カタログタイプのリストを有効にするか無効にするかを定義します。
- **enabled**: ユーザーに表示される開発者カタログタイプ (サブカタログ) のリストを定義します。
- **disabled**: ユーザーに表示されない開発者カタログタイプ (サブカタログ) のリストを定義します。

YAML ビューまたはフォームビューを使用して、次の開発者カタログタイプ (サブカタログ) を有効または無効にすることができます。

- **Builder Images**
- **テンプレート**
- **Devfiles**
- **サンプル**
- **Helm Charts**
- **Event Sources**
- **Event Sinks**
- **Operator Backed**

6.10.1. YAML ビューを使用した開発者カタログまたはそのサブカタログのカスタマイズ

YAML ビューで YAML コンテンツを編集することにより、開発者カタログをカスタマイズできます。

前提条件

- クラスター管理者権限を持つ OpenShift Web コンソールセッション。

手順

1. Web コンソールの **Administrator** パースペクティブで、**Administration → Cluster Settings** に移動します。
2. **Configuration** タブを選択し、**Console (operator.openshift.io)** リソースをクリックして、**Details** ページを表示します。
3. **YAML** タブをクリックしてエディターを開き、必要に応じて YAML コンテンツを編集します。

たとえば、開発者カタログタイプを無効にするには、無効な開発者カタログリソースのリストを定義する次のスニペットを挿入します。

```
apiVersion: operator.openshift.io/v1
kind: Console
metadata:
  name: cluster
...
spec:
  customization:
    developerCatalog:
      categories:
      types:
        state: Disabled
        disabled:
          - BuilderImage
          - Devfile
          - HelmChart
...
```

4. **Save** をクリックします。

注記

デフォルトでは、Web コンソールの管理者ビューで開発者カタログタイプが有効になっています。

6.10.2. フォームビューを使用した開発者カタログまたはそのサブカタログのカスタマイズ

Web コンソールのフォームビューを使用して、開発者カタログをカスタマイズできます。

前提条件

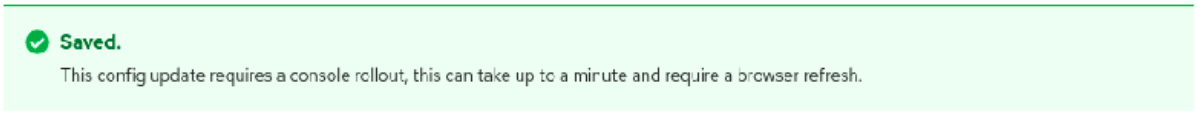
- クラスター管理者権限を持つ OpenShift Web コンソールセッション。
- Developer パースペクティブが有効になっている。

手順

1. **Administrator** パースペクティブで、**Administration → Cluster Settings** に移動します。
2. **Configuration** タブを選択し、**Console (operator.openshift.io)** リソースをクリックします。
3. **Actions → Customize** をクリックします。
4. **Pre-pinned navigation items**、**Add page**、および **Developer Catalog** セクションの項目を有効または無効にします。

検証

開発者カタログをカスタマイズすると、変更内容がシステムに自動的に保存され、更新後にブラウザーで有効になります。



注記

管理者は、すべてのユーザーに対してデフォルトで表示されるナビゲーション項目を定義できます。ナビゲーション項目を並べ替えることもできます。

ヒント

同様の手順を使用して、クイックスタート、クラスターロール、アクションなどの Web UI 項目をカスタマイズできます。

6.10.2.1. YAML ファイルの変更例

開発者カタログをカスタマイズするために、YAML エディターに次のスニペットを動的に追加できます。

次のスニペットを使用して、**状態** タイプを **Enabled** に設定してすべてのサブカタログを表示します。

```
apiVersion: operator.openshift.io/v1
kind: Console
metadata:
  name: cluster
...
spec:
  customization:
    developerCatalog:
      categories:
      types:
        state: Enabled
```

次のスニペットを使用して、**状態** タイプを **Disabled** に設定してすべてのサブカタログを無効にします。

```
apiVersion: operator.openshift.io/v1
kind: Console
metadata:
  name: cluster
...
spec:
  customization:
    developerCatalog:
      categories:
      types:
        state: Disabled
```

クラスター管理者が、Web コンソールで有効になっているサブカタログのリストを定義する場合は、次のスニペットを使用します。

```
apiVersion: operator.openshift.io/v1
kind: Console
metadata:
```

```
  name: cluster
...
spec:
  customization:
    developerCatalog:
      categories:
      types:
        state: Enabled
        enabled:
          - BuilderImage
          - Devfile
          - HelmChart
          - ...
```

第7章 動的プラグイン

7.1. 動的プラグインの概要

7.1.1. 動的プラグインについて

動的プラグインを使用すると、実行時にカスタムページおよびその他のエクステンションをインターフェイスに追加できます。**ConsolePlugin** カスタムリソースはコンソールと共にプラグインを登録し、クラスター管理者は **console-operator** 設定でプラグインを有効にします。

7.1.2. 主な特長

動的プラグインを使用すると、以下のカスタマイズを OpenShift Container Platform エクスペリエンスに設定することができます。

- カスタムページの追加。
- 管理者と開発者を超えたパースペクティブを追加します。
- ナビゲーション項目の追加。
- リソースページへのタブおよびアクションの追加。

7.1.3. 全般的なガイドライン

プラグインの作成時には、以下の一般的なガイドラインに従ってください。

- プラグインをビルドして実行するには、**Node.js** と **yarn** が必要です。
- CSS クラス名の前にプラグイン名を付けて、競合を回避します。例: **my-plugin__heading** および **my-plugin__icon**
- 他のコンソールページとの一貫したルック、フィール、および動作を維持します。
- プラグインの作成時には、react-i18next のローカリゼーションガイドラインに従ってください。以下の例のように **useTranslation** フックを使用できます。

```
conster Header: React.FC = () => {
  const { t } = useTranslation('plugin__console-demo-plugin');
  return <h1>{t('Hello, World!')}</h1>;
};
```

- 要素セレクターなど、プラグインコンポーネント外のマークアップに影響を与える可能性のあるセレクターは避けてください。これらは API ではなく、変更される可能性があります。これらを使用すると、プラグインが破損する可能性があります。プラグインコンポーネント外のマークアップに影響を与える可能性のある要素セレクターなどのセレクターを回避します。

PatternFly ガイドライン
プラグインを作成する場合は、PatternFly の使用に関する以下のガイドラインに従ってください。

- PatternFly コンポーネンツと PatternFly CSS 変数を使用します。コア PatternFly コンポーネントは SDK から利用できます。Pattern Fly コンポーネントと変数を使用すると、将来のコンソールバージョンでプラグインが一貫しているように見えます。

- PatternFly's accessibility fundamentals に従って、プラグインにアクセスできるようにします。
- Bootstrap や Tailwind などの他の CSS ライブラリーは使用しないでください。これらは、PatternFly と競合する可能性があり、コンソールのルックアンドフィールとは一致しません。

7.2. 動的プラグインを使い始める

動的プラグインの使用を開始するには、新しい OpenShift Container Platform 動的プラグインを作成するように環境をセットアップする必要があります。新しいプラグインを作成する方法の例は、Pod ページへのタブの追加 を参照してください。

7.2.1. 動的プラグインの開発

ローカルの開発環境を使用してプラグインを実行できます。OpenShift Container Platform Web コンソールは、ログインしているクラスターに接続されているコンテナーで実行されます。

前提条件

- OpenShift クラスターが実行中である必要があります。
- OpenShift CLI (**oc**) がインストールされている。
- **yarn** がインストールされている必要があります。
- Docker v3.2.0 以降または Podman をインストールして実行している必要があります。

手順

1. ターミナルで次のコマンドを実行して、yarn を使用してプラグインの依存関係をインストールします。

```
$ yarn install
```

2. インストール後、以下のコマンドを実行して yarn を起動します。

```
$ yarn run start
```

3. 別のターミナルウィンドウで、CLI を使用して OpenShift Container Platform にログインします。

```
$ oc login
```

4. 以下のコマンドを実行して、ログインしたクラスターに接続されたコンテナーで OpenShift Container Platform Web コンソールを実行します。

```
$ yarn run start-console
```

検証

- localhost:9000 にアクセスして、実行中のプラグインを表示します。**window.SERVER_FLAGS.consolePlugins** の値を検査し、ランタイム時にロードされるプラグインの一覧を表示します。

7.3. クラスターへのプラグインのデプロイ

プラグインを OpenShift Container Platform クラスターにデプロイできます。

7.3.1. Docker を使用したイメージのビルド

クラスターにプラグインをデプロイするには、イメージをビルドし、これをイメージレジストリーにプッシュする必要があります。

手順

1. 以下のコマンドでイメージをビルドします。

```
$ docker build -t quay.io/my-repositroy/my-plugin:latest .
```

2. オプション: イメージをテストする場合は、以下のコマンドを実行します。

```
$ docker run -it --rm -d -p 9001:80 quay.io/my-repository/my-plugin:latest
```

3. 以下のコマンドを実行してイメージをプッシュします。

```
$ docker push quay.io/my-repository/my-plugin:latest
```

7.3.2. クラスターへのプラグインのデプロイ

レジストリーに変更を加えたイメージをプッシュした後、プラグインをクラスターにデプロイできます。

手順

1. プラグインをクラスターにデプロイするには、プラグインの名前を Helm リリース名として Helm チャートを、新しい namespace または **-n** コマンドラインオプションで指定された既存の namespace にインストールします。次のコマンドを使用して、**plugin.image** パラメーター内のイメージの場所を指定します。

```
$ helm upgrade -i  my-plugin charts/openshift-console-plugin -n my-plugin-namespace --
create-namespace --set plugin.image=my-plugin-image-location
```

ここでは、以下のようになります。

n <my-plugin-namespace>
プラグインをデプロイする既存の namespace を指定します。

--create-namespace
オプション: 新しい namespace にデプロイする場合は、このパラメーターを使用します。

--set plugin.image=my-plugin-image-location
plugin.image パラメーター内のイメージの場所を指定します。

2. オプション: **charts/openshift-console-plugin/values.yaml** ファイルでサポートされている一連のパラメーターを使用して、追加のパラメーターを指定できます。

```
plugin:
```

```
  name: ""
  description: ""
  image: ""
  imagePullPolicy: IfNotPresent
  replicas: 2
  port: 9443
  securityContext:
    enabled: true
  podSecurityContext:
    enabled: true
    runAsNonRoot: true
    seccompProfile:
      type: RuntimeDefault
  containerSecurityContext:
    enabled: true
    allowPrivilegeEscalation: false
    capabilities:
      drop:
        - ALL
  resources:
    requests:
      cpu: 10m
      memory: 50Mi
  basePath: /
  certificateSecretName: ""
  serviceAccount:
    create: true
    annotations: {}
    name: ""
  patcherServiceAccount:
    create: true
    annotations: {}
    name: ""
  jobs:
    patchConsoles:
      enabled: true
      image: "registry.redhat.io/openshift4/ose-tools-
rhel8@sha256:e44074f21e0cca6464e50cb6ff934747e0bd11162ea01d522433a1a1ae116103"

      podSecurityContext:
        enabled: true
        runAsNonRoot: true
        seccompProfile:
          type: RuntimeDefault
      containerSecurityContext:
        enabled: true
        allowPrivilegeEscalation: false
        capabilities:
          drop:
            - ALL
      resources:
        requests:
          cpu: 10m
          memory: 50Mi
```

検証

- 有効なプラグインのリストを表示するには、**Administration → Cluster Settings → Configuration → Console operator.openshift.io → Console plugins** に移動するか、**Overview** ページにアクセスします。

注記

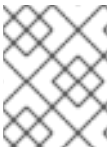
新しいプラグイン設定が表示されるまで数分かかる場合があります。最近プラグインを有効にしたにもかかわらず、プラグインが表示されない場合は、ブラウザを更新する必要が生じる可能性があります。実行時にエラーが発生した場合は、ブラウザー開発者ツールの JS コンソールをチェックして、プラグインコードにエラーがないか調べてください。

7.3.3. ブラウザーでのプラグインの無効化

コンソールユーザーは、**disable-plugins** クエリーパラメーターを使用して、通常ランタイム時にロードされる特定またはすべての動的プラグインを無効にすることができます。

手順

- 特定のプラグインを無効にするには、プラグイン名のコンマ区切りリストから無効にするプラグインを削除します。
- すべてのプラグインを無効にするには、**disable-plugins** クエリーパラメーターを空の文字列のままにします。



注記

クラスター管理者は、Web コンソールの **Cluster Settings** ページでプラグインを無効にできます。

7.3.4. 関連情報

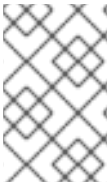
- Helm について

7.4. 動的プラグインの例

例を実行する前に、動的プラグイン開発 の手順に従って、プラグインが機能していることを確認してください。

7.4.1. Pod ページへのタブの追加

OpenShift Container Platform Web コンソールに対して行うことができるさまざまなカスタマイズがあります。以下の手順では、サンプルとしてプラグインにタブを **Pod details** ページに追加します。



注記

OpenShift Container Platform Web コンソールは、ログインしているクラスターに接続されているコンテナーで実行されます。独自のプラグインを作成する前にプラグインをテストするための情報については、「動的プラグインの開発」を参照してください。

手順

1. 新しいタブでプラグインを作成するためのテンプレートを含む **console-plugin-template** リポジトリーにアクセスします。

重要

カスタムプラグインコードは、Red Hat ではサポートされていません。プラグインで利用できるのは、共同コミュニティーのサポート のみです。

2. **Use this template → Create new repository** をクリックして、テンプレートの GitHub リポジトリーを作成します。

3. プラグインの名前で新しいリポジトリーの名前を変更します。

4. コードを編集できるように、新しいリポジトリーのクローンをローカルマシンに作成します。

5. **package.json** ファイルを編集して、プラグインのメタデータを **consolePlugin** 宣言に追加します。以下に例を示します。

```
"consolePlugin": {
  "name": "my-plugin", (1)
  "version": "0.0.1", (2)
  "displayName": "My Plugin", (3)
  "description": "Enjoy this shiny, new console plugin!", (4)
  "exposedModules": {
    "ExamplePage": "./components/ExamplePage"
  },
  "dependencies": {
    "@console/pluginAPI": "/*"
  }
}
```

(1) プラグインの名前を更新します。

(2) バージョンを更新します。

(3) プラグインの表示名を更新します。

(4) プラグインの概要を使用して、説明を更新します。

6. **console-extensions.json** ファイルに以下を追加します。

```
{
  "type": "console.tab/horizontalNav",
  "properties": {
    "page": {
      "name": "Example Tab",
      "href": "example"
    },
    "model": {
      "group": "core",
      "version": "v1",
      "kind": "Pod"
    },
```

```
    "component": { "$codeRef": "ExampleTab" }
  }
}
```

7. **package.json** ファイルを編集して以下の変更を追加します。

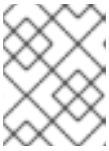
```
    "exposedModules": {
      "ExamplePage": "./components/ExamplePage",
      "ExampleTab": "./components/ExampleTab"
    }
```

8. 新しいファイル **src/components/ExampleTab.tsx** を作成し、以下のスクリプトを追加することで、**Pod** ページの新規カスタムタブに表示されるメッセージを作成します。

```
import * as React from 'react';

export default function ExampleTab() {
  return (
    <p>This is a custom tab added to a resource using a dynamic plugin.</p>
  );
}
```

9. プラグインをクラスターにデプロイするには、プラグインの名前を Helm リリース名として Helm チャートを、新しい namespace または **-n** コマンドラインオプションで指定された既存の namespace にインストールします。次のコマンドを使用して、**plugin.image** パラメーター内のイメージの場所を指定します。

```
$ helm upgrade -i  my-plugin charts/openshift-console-plugin -n my-plugin-namespace --create-namespace --set plugin.image=my-plugin-image-location
```



注記

クラスターへのプラグインのデプロイの詳細は、「クラスターへのプラグインのデプロイ」を参照してください。

検証

- **Pod** ページに移動し、追加されたタブを表示します。

7.5. 動的プラグイン参照

プラグインのカスタマイズを可能にするエクステンションを追加できます。これらのエクステンションは、ランタイム時にコンソールにロードされます。

7.5.1. 動的プラグインエクステンションのタイプ

console.action/filter
ActionFilter を使用してアクションを絞り込むことができます。

名前	値のタイプ	任意	説明

名前	値のタイプ	任意	説明
contextId	**string**	いいえ	コンテキスト ID は、提供したアクションのスコープをアプリケーションの特定のエリアに限定するのに役立ちますたとえば、**トポロジー** および **helm** などがあります。
filter	**CodeRef<(スコープ: any、action: Action) ⇒ boolean>**	いいえ	一部の条件に基づいてアクションをフィルターする関数。 **scope**: アクションを指定するスコープ。Horizontal Pod Autoscaler (HPA) のデプロイメントから **ModifyCount** アクションを削除する必要がある場合には、フックが必要になることがあります。

console.action/group
ActionGroup は、サブメニューに指定可能なアクショングループを提供します。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	アクションの選択を識別するための ID。
label	**string**	はい	UI に表示されるラベル。サブメニューに必要です。
submenu	**boolean**	はい	このグループをサブメニューとして表示するかどうか。
insertBefore	**string | string[]**	はい	ここで参照される項目の前に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。

名前	値のタイプ	任意	説明
insertAfter	**string** | **string[]**	はい	ここで参照される項目の後に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。**insertBefore** 値が優先されます。

console.action/provider
ActionProvider は、特定のコンテキストに対するアクションのリストを返すフックを提供します。

名前	値のタイプ	任意	説明
contextId	**string**	いいえ	コンテキスト ID は、提供したアクションのスコープをアプリケーションの特定のエリアに限定するのに役立ちますたとえば、**トポロジー** および **helm** などがあります。
provider	**CodeRef<Extension Hook<Action[], any>>**	いいえ	指定のスコープのアクションを返す React フック。**contextId** = **resource** の場合には、スコープは常に Kubernetes リソースオブジェクトになります。

console.action/resource-provider
ResourceActionProvider は、特定のリソースモデルに対するアクションのリストを返すフックを提供します。

名前	値のタイプ	任意	説明
model	**ExtensionK8sKindVersionModel**	いいえ	このプロバイダーがアクションを提供するモデル。
provider	**CodeRef<Extension Hook<Action[], any>>**	いいえ	指定のリソースモデルに対するアクションを返す反応フック

console.alert-action

このエクステンションを使用すると、特定の Prometheus アラートが **rules.name** 値に基づいてコンソールで観察された場合に、特定のアクションをトリガーできます。

名前	値のタイプ	任意	説明
alert	**string**	いいえ	**alert.rule.name** プロパティーで定義されたアラート名
text	**string**	いいえ	
action	**CodeRef<(alert: any) ⇒ void>**	いいえ	副次的な影響を実行する関数

console.catalog/item-filter
このエクステンションは、特定のカタログ項目をフィルタリングできるハンドラーを追加するプラグインに使用できます。たとえばプラグインは、特定のプロバイダーからの Helm チャートをフィルタリングするフィルターを追加できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
catalogId	**string** | **string[]**	いいえ	このプロバイダーが提供するカタログの一意の識別子。
type	**string**	いいえ	カタログ項目タイプのタイプ ID。
filter	**CodeRef<(item: CatalogItem) ⇒ boolean>**	いいえ	特定のタイプの項目をフィルタリングします。Value は、**CatalogItem[]** を受け取り、フィルター条件に基づいてサブセットを返す関数です。

console.catalog/item-metadata
このエクステンションを使用すると、特定のカタログ項目に追加のメタデータを追加するプロバイダーを追加できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
catalogId	**string** | **string[]**	いいえ	このプロバイダーが提供するカタログの一意の識別子。
type	**string**	いいえ	カタログ項目タイプのタイプ ID。

名前	値のタイプ	任意	説明
provider	**CodeRef<ExtensionHook<CatalogItemMetadataProviderFunction, CatalogExtensionHookOptions>>**	いいえ	特定のタイプのカタログ項目にメタデータを提供するために使用される関数を返すフック。

console.catalog/item-provider
このエクステンションを使用すると、プラグインはカタログ項目タイプのプロバイダーを追加できます。たとえば、Helm プラグインは、すべての Helm チャートを取得するプロバイダーを追加できます。このエクステンションを他のプラグインで使用して、特定のカタログ項目タイプをさらに追加することもできます。

名前	値のタイプ	任意	説明
catalogId	**string | string[]**	いいえ	このプロバイダーが提供するカタログの一意の識別子。
type	**string**	いいえ	カタログ項目タイプのタイプ ID。
title	**string**	いいえ	カタログ項目プロバイダーのタイトル
provider	**CodeRef<ExtensionHook<CatalogItem<any>[], CatalogExtensionHookOptions>>**	いいえ	項目を取得し、これをカタログ用に正規化します。値は反応効果フックです。
priority	**number**	はい	このプロバイダーの優先順位。デフォルトは **0** です。優先度の高いプロバイダーは、他のプロバイダーが提供するカタログ項目を上書きする可能性があります。

console.catalog/item-type
このエクステンションを使用すると、プラグインはカタログ項目の新しいタイプを追加できます。たとえば Helm プラグインは、開発者カタログに追加する新しいカタログ項目タイプを HelmCharts として定義できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
type	**string**	いいえ	カタログ項目をタイプ。

名前	値のタイプ	任意	説明
title	**string**	いいえ	カタログ項目のタイトル。
catalogDescription	**string | CodeRef<React.ReactNode>**	はい	カタログに固有のタイプの説明。
typeDescription	**string**	はい	カタログ項目タイプの説明。
filters	**CatalogItemAttribute []**	はい	カタログ項目に固有のカスタムフィルター。
groupings	**CatalogItemAttribute []**	はい	カタログ項目に固有のカスタムグルーピング。

console.catalog/item-type-metadata
このエクステンションを使用すると、プラグインは任意のカタログ項目タイプのカスタムフィルターやグループ化などのメタデータを追加できます。たとえばプラグインは、チャートプロバイダーに基づきフィルタリングできる HelmCharts のカスタムフィルターをアタッチできます。

名前	値のタイプ	任意	説明
type	**string**	いいえ	カタログ項目をタイプ。
filters	**CatalogItemAttribute []**	はい	カタログ項目に固有のカスタムフィルター。
groupings	**CatalogItemAttribute []**	はい	カタログ項目に固有のカスタムグルーピング。

console.cluster-overview/inventory-item
新しいインベントリー項目をクラスターの概要ページに追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
component	**CodeRef<React.ComponentType<{}>>**	いいえ	レンダリングされるコンポーネント。

console.cluster-overview/multiline-utilization-item
新しいクラスター概要のマルチライン使用状況項目を追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明

名前	値のタイプ	任意	説明
title	**string**	いいえ	使用状況項目のタイトル。
getUtilizationQueries	**CodeRef<GetMultilineQueries>**	いいえ	Prometheus 使用状況クエリー。
humanize	**CodeRef<Humanize>**	いいえ	Prometheus データを人間が判読できる形式に変換します。
TopConsumerPopovers	**CodeRef<React.ComponentType<TopConsumerPopoverProps>[]>**	はい	プレーン値の代わりに Top コンシューマーポップオーバーを表示します。

console.cluster-overview/utilization-item
新しいクラスター概要の使用状況項目を追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
title	**string**	いいえ	使用状況項目のタイトル。
getUtilizationQuery	**CodeRef<GetQuery>**	いいえ	Prometheus 使用状況クエリー。
humanize	**CodeRef<Humanize>**	いいえ	Prometheus データを人間が判読できる形式に変換します。
getTotalQuery	**CodeRef<GetQuery>**	はい	Prometheus 合計のクエリー。
getRequestQuery	**CodeRef<GetQuery>**	はい	Prometheus 要求のクエリー。
getLimitQuery	**CodeRef<GetQuery>**	はい	Prometheus 制限のクエリー。
TopConsumerPopover	**CodeRef<React.ComponentType<TopConsumerPopoverProps>>**	はい	プレーン値の代わりに Top コンシューマーポップオーバーを表示します。

console.context-provider

新しい React コンテキストプロバイダーを Web コンソールのアプリケーションルートに追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
provider	**CodeRef<Provider<T>></**	いいえ	Context プロバイダーコンポーネント。
useValueHook	**CodeRef<() ⇒ T>**	いいえ	コンテキスト値のフック。

console.dashboards/card
新しいダッシュボードカードを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
tab	**string**	いいえ	カードを追加するダッシュボードタブの ID。
position	**'LEFT' | 'RIGHT' | 'MAIN'**	いいえ	ダッシュボードのカードのグリッド位置。
component	**CodeRef<React.ComponentType<{}>>**	いいえ	ダッシュボードカードのコンポーネント。
span	**OverviewCardSpan**	はい	列内のカードの垂直スパン。小さな画面では無視され、デフォルトは **12** です。

console.dashboards/custom/overview/detail/item
Overview ダッシュボードの Details カードに項目を追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
title	**string**	いいえ	Details カードのタイトル
component	**CodeRef<React.ComponentType<{}>>**	いいえ	OverviewDetailItem コンポーネントによってレンダリングされる値
valueClassName	**string**	はい	className の値
isLoading	**CodeRef<() ⇒ boolean>**	はい	コンポーネントのロード中の状態を返す関数
error	**CodeRef<() ⇒ string>**	はい	コンポーネントごとに表示するエラーを返す関数

console.dashboards/overview/activity/resource
Kubernetes リソースの監視に基づいてアクティビティーをトリガーしている Overview ダッシュボードの Activity カードにアクティビティーを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
k8sResource	**CodeRef<FirehoseResource & { isList: true; }>**	いいえ	置き換える使用状況項目。
component	**CodeRef<React.ComponentType<K8sActivityProps<T>>>**	いいえ	アクションコンポーネント。
isActivity	**CodeRef<(resource: T) ⇒ boolean>**	はい	指定のリソースがアクションを表すかどうかを判断する関数。定義されていない場合は、すべてのリソースがアクティビティーを表します。
getTimestamp	**CodeRef<(resource: T) ⇒ Date>**	はい	指定のアクションのタイムスタンプで、順序付けに使用されます。

console.dashboards/overview/health/operator
ステータスのソースが Kubernetes REST API である **Overview** ダッシュボードのステータスカードに health サブシステムを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
title	**string**	いいえ	ポップアップメニューの Operators セクションのタイトル。
resources	**CodeRef<FirehoseResource[]>**	いいえ	フェッチされ、**healthHandler** に渡される Kubernetes リソース。
getOperatorsWithStatuses	**CodeRef<GetOperatorsWithStatuses<T>>**	はい	Operator のステータスを解決します。
operatorRowLoader	**CodeRef<React.ComponentType<OperatorRowProps<T>>>**	はい	ポップアップ行コンポーネントのローダー。

名前	値のタイプ	任意	説明
viewAllLink	**string**	はい	すべてのリソースページへのリンク。指定しない場合は、resources prop から最初のリソースのリストページが使用されます。

console.dashboards/overview/health/prometheus
ステータスのソースが Prometheus である Overview ダッシュボードのステータスカードに health サブシステムを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
title	**string**	いいえ	サブシステムの表示名。
クエリー	**string[]**	いいえ	Prometheus クエリー
healthHandler	**CodeRef<PrometheusHealthHandler>**	いいえ	サブシステムの健全性を解決します。
additionalResource	**CodeRef<FirehoseResource>**	はい	フェッチされ、**healthHandler** に渡される追加のリソース。
popupComponent	**CodeRef<React.ComponentType<PrometheusHealthPopupProps>>**	はい	ポップアップメニューコンテンツのローダー。定義された場合、health 項目はリンクとして表され、指定のコンテンツを含むポップアップメニューが開きます。
popupTitle	**string**	はい	ポップオーバーのタイトル。
disallowedControlPlaneTopology	**string[]**	はい	サブシステムを非表示にする必要のあるコントロールプレーントポロジー。

console.dashboards/overview/health/resource
ステータスのソースが Kubernetes リソースである概要ダッシュボードのステータスカードに health サブシステムを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
title	**string**	いいえ	サブシステムの表示名。
resources	**CodeRef<WatchK8sResources<T>>**	いいえ	フェッチされ、**healthHandler** に渡される Kubernetes リソース。
healthHandler	**CodeRef<ResourceHealthHandler<T>>**	いいえ	サブシステムの健全性を解決します。
popupComponent	**CodeRef<WatchK8sResults<T>>**	はい	ポップアップメニューコンテンツのローダー。定義された場合、health 項目はリンクとして表され、指定のコンテンツを含むポップアップメニューが開きます。
popupTitle	**string**	はい	ポップオーバーのタイトル。

console.dashboards/overview/health/url
ステータスのソースが Kubernetes REST API である概要ダッシュボードのステータスカードに health サブシステムを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
title	**string**	いいえ	サブシステムの表示名。
url	**string**	いいえ	データの取得元の URL。これには、ベース Kubernetes URL が接頭辞として付けられます。
healthHandler	**CodeRef<URLHealthHandler<T, K8sResourceCommon | K8sResourceCommon[]>>**	いいえ	サブシステムの健全性を解決します。
additionalResource	**CodeRef<FirehoseResource>**	はい	フェッチされ、**healthHandler** に渡される追加のリソース。

名前	値のタイプ	任意	説明
popupComponent	**CodeRef<React.ComponentType<{ healthResult?: T; healthResultError?: any; k8sResult?: FirehoseResult<R>; }>>**	はい	ポップアップコンテンツのローダー。定義された場合、health 項目は指定のコンテンツのポップアップが開くリンクとして表示されます。
popupTitle	**string**	はい	ポップオーバーのタイトル。

console.dashboards/overview/inventory/item
概要インベントリーカードにリソースタイルを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
model	**CodeRef<T>**	いいえ	取得する **resource** のモデル。モデルの **label** または **abbr** の取得に使用します。
mapper	**CodeRef<StatusGroupMapper<T, R>>**	はい	さまざまなステータスをグループにマッピングする関数。
additionalResources	**CodeRef<WatchK8sResources<R>>**	はい	フェッチされ、**mapper** 関数に渡される追加のリソース。

console.dashboards/overview/inventory/item/group
インベントリーのステータスグループを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	ステータスグループの ID。
icon	**CodeRef<React.ReactElement<any, string | React.JSXElementConstructor<any>>>**	いいえ	ステータスグループアイコンを表す React コンポーネント。

console.dashboards/overview/inventory/item/replacement

概要のインベントリーカードを置き換えます。

名前	値のタイプ	任意	説明
model	**CodeRef<T>**	いいえ	取得する **resource** のモデル。モデルの **label** または **abbr** の取得に使用します。
mapper	**CodeRef<StatusGroupMapper<T, R>>**	はい	さまざまなステータスをグループにマッピングする関数。
additionalResources	**CodeRef<WatchK8sResources<R>>**	はい	フェッチされ、**mapper** 関数に渡される追加のリソース。

console.dashboards/overview/prometheus/activity/resource
Kubernetes リソースの監視に基づいてアクティビティーをトリガーしている Prometheus Overview ダッシュボードの Activity カードにアクティビティーを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
クエリー	**string[]**	いいえ	監視するクエリー。
component	**CodeRef<React.ComponentType<PrometheusActivityProps>>**	いいえ	アクションコンポーネント。
isActivity	**CodeRef<(results: PrometheusResponse[]) ⇒ boolean>**	はい	指定のリソースがアクションを表すかどうかを判断する関数。定義されていない場合は、すべてのリソースがアクティビティーを表します。

console.dashboards/project/overview/item
プロジェクトの概要インベントリーカードにリソースタイルを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
model	**CodeRef<T>**	いいえ	取得する **resource** のモデル。モデルの **label** または **abbr** の取得に使用します。
mapper	**CodeRef<StatusGroupMapper<T, R>>**	はい	さまざまなステータスをグループにマッピングする関数。

名前	値のタイプ	任意	説明
additionalResources	**CodeRef<WatchK8sResources<R>>**	はい	フェッチされ、**mapper** 関数に渡される追加のリソース。

console.dashboards/tab
Overview タブの後に置かれた新規ダッシュボードタブを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	このタブにカードを追加する場合にタブリンク **href** として使用される一意のタブ ID。
navSection	**'home' | 'storage'**	いいえ	タブが属するナビゲーションセクション。
title	**string**	いいえ	タブのタイトル。

console.file-upload
このエクステンションを使用すると、特定のファイル拡張子に対するファイルドロップアクションのハンドラーを追加できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
fileExtensions	**string[]**	いいえ	サポートされるファイル拡張子。
handler	**CodeRef<FileUploadHandler>**	いいえ	ファイルドロップアクションを処理する関数。

console.flag
Web コンソール機能フラグを完全に制御します。

名前	値のタイプ	任意	説明
handler	**CodeRef<FeatureFlagHandler>**	いいえ	任意の機能フラグを設定または設定解除するのに使用されます。

console.flag/hookProvider
フックハンドラーを使用して Web コンソール機能フラグを完全に制御します。

名前	値のタイプ	任意	説明
handler	**CodeRef<FeatureFlagHandler>**	いいえ	任意の機能フラグを設定または設定解除するのに使用されます。

console.flag/model
クラスター上の **CustomResourceDefinition** (CRD) オブジェクトの存在によって駆動される、新しい Web コンソール機能フラグを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
flag	**string**	いいえ	CRD が検出された後に設定するフラグの名前。
model	**ExtensionK8sModel**	いいえ	CRD を指すモデル。

console.global-config
このエクステンションは、クラスターの設定を管理するために使用されるリソースを識別します。**Administration → Cluster Settings → Configuration** ページに、リソースへのリンクが追加されます。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	クラスター設定リソースインスタンスの一意の識別子。
name	**string**	いいえ	クラスター設定リソースインスタンスの名前。
model	**ExtensionK8sModel**	いいえ	クラスター設定リソースを参照するモデル。
namespace	**string**	いいえ	クラスター設定リソースインスタンスの namespace。

console.model-metadata
API 検出で取得および生成される値を上書きして、モデルの表示をカスタマイズします。

名前	値のタイプ	任意	説明

名前	値のタイプ	任意	説明
model	**ExtensionK8sGroupModel**	いいえ	カスタマイズするモデル。グループのみ、またはオプションのバージョンおよび種類を指定できます。
badge	**ModelBadge**	はい	このモデル参照をテクノロジープレビューまたは開発者プレビューとみなすかどうか。
color	**string**	はい	このモデルに関連付ける色。
label	**string**	はい	ラベルをオーバーライドします。**kind** を指定する必要があります。
labelPlural	**string**	はい	複数形のラベルをオーバーライドします。**kind** を指定する必要があります。
abbr	**string**	はい	省略形をカスタマイズします。デフォルトは **kind** のすべての大文字 (最大 4 文字) です。その **kind** を指定する必要があります。

console.navigation/href
このエクステンションを使用すると、UI 内の特定のリンクを指すナビゲーション項目を追加できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	この項目の一意の識別子。
name	**string**	いいえ	この項目の名前。
href	**string**	いいえ	リンクの **href** の値。
perspective	**string**	はい	この項目が属するパースペクティブ ID。指定されていない場合は、デフォルトのパースペクティブに提供します。

名前	値のタイプ	任意	説明
section	**string**	はい	この項目が属するナビゲーションセクション。指定されていない場合は、この項目を最上位のリンクとしてレンダリングします。
dataAttributes	**{ [key: string]: string; }**	はい	データ属性を DOM に追加します。
startsWith	**string[]**	はい	URL がこのパスのいずれかで始まる場合は、この項目をアクティブと識別します。
insertBefore	**string | string[]**	はい	ここで参照される項目の前に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。
insertAfter	**string | string[]**	はい	ここで参照される項目の後に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。**insertBefore** が優先されます。
namespaced	**boolean**	はい	**true** の場合、**/ns/active-namespace** を最後に追加します。
prefixNamespaced	**boolean**	はい	**true** の場合、先頭に **/k8s/ns/active-namespace** が追加されます。

console.navigation/resource-cluster
このエクステンションを使用すると、クラスターリソースの詳細ページを指すナビゲーションアイテムを追加できます。そのリソースの K8s モデルを使用して、ナビゲーション項目を定義できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	この項目の一意の識別子。

名前	値のタイプ	任意	説明
model	**ExtensionK8sModel**	いいえ	このナビゲーション項目がリンクするモデル。
perspective	**string**	はい	この項目が属するパースペクティブ ID。指定されていない場合は、デフォルトのパースペクティブに提供します。
section	**string**	はい	この項目が属するナビゲーションセクション。指定しない場合は、この項目をトップレベルのリンクとしてレンダリングします。
dataAttributes	**{ [key: string]: string; }**	はい	データ属性を DOM に追加します。
startsWith	**string[]**	はい	URL がこのパスのいずれかで始まる場合は、この項目をアクティブと識別します。
insertBefore	**string | string[]**	はい	ここで参照される項目の前に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。
insertAfter	**string | string[]**	はい	ここで参照される項目の後に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。**insertBefore** が優先されます。
name	**string**	はい	デフォルト名をオーバーライドします。指定されていない場合、リンクの名前はモデルの複数形の値と同じになります。

console.navigation/resource-ns
このエクステンションを使用すると、namespaced リソースの詳細ページを指すナビゲーション項目を追加できます。そのリソースの K8s モデルを使用して、ナビゲーション項目を定義できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	この項目の一意の識別子。
model	**ExtensionK8sModel**	いいえ	このナビゲーション項目がリンクするモデル。
perspective	**string**	はい	この項目が属するパースペクティブ ID。指定されていない場合は、デフォルトのパースペクティブに提供します。
section	**string**	はい	この項目が属するナビゲーションセクション。指定しない場合は、この項目をトップレベルのリンクとしてレンダリングします。
dataAttributes	**{ [key: string]: string; }**	はい	データ属性を DOM に追加します。
startsWith	**string[]**	はい	URL がこのパスのいずれかで始まる場合は、この項目をアクティブと識別します。
insertBefore	**string | string[]**	はい	ここで参照される項目の前に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。
insertAfter	**string | string[]**	はい	ここで参照される項目の後に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。**insertBefore** が優先されます。
name	**string**	はい	デフォルト名をオーバーライドします。指定されていない場合、リンクの名前はモデルの複数形の値と同じになります。

console.navigation/section

このエクステンションを使用すると、ナビゲーションタブ内の新しいナビゲーション項目セクションを定義できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	この項目の一意の識別子。
perspective	**string**	はい	この項目が属するパースペクティブ ID。指定されていない場合は、デフォルトのパースペクティブに提供します。
dataAttributes	**{ [key: string]: string; }**	はい	データ属性を DOM に追加します。
insertBefore	**string | string[]**	はい	ここで参照される項目の前に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。
insertAfter	**string | string[]**	はい	ここで参照される項目の後に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。**insertBefore** が優先されます。
name	**string**	はい	このセクションの名前。指定しない場合は、セクションの上に区切り記号のみが表示されます。

console.navigation/separator
このエクステンションを使用すると、ナビゲーション内のナビゲーション項目間に区切り文字を追加できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	この項目の一意の識別子。
perspective	**string**	はい	この項目が属するパースペクティブ ID。指定されていない場合は、デフォルトのパースペクティブに提供します。

名前	値のタイプ	任意	説明
section	**string**	はい	この項目が属するナビゲーションセクション。指定されていない場合は、この項目を最上位のリンクとしてレンダリングします。
dataAttributes	**{ [key: string]: string; }**	はい	データ属性を DOM に追加します。
insertBefore	**string | string[]**	はい	ここで参照される項目の前に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。
insertAfter	**string | string[]**	はい	ここで参照される項目の後に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。**insertBefore** が優先されます。

console.page/resource/details

名前	値のタイプ	任意	説明
model	**ExtensionK8sGroupKindModel**	いいえ	このリソースページがリンクするモデル。
component	**CodeRef<React.ComponentType<{ match: match<{}>; namespace: string; model: ExtensionK8sModel; }>>**	いいえ	ルートがマッチしたときにレンダリングされるコンポーネント。

console.page/resource/list
Console ルーターに新しいリソースリストのページを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
model	**ExtensionK8sGroupKindModel**	いいえ	このリソースページがリンクするモデル。

名前	値のタイプ	任意	説明
component	**CodeRef<React.ComponentType<{ match: match<{}>; namespace: string; model: ExtensionK8sModel; }>>**	いいえ	ルートがマッチしたときにレンダリングされるコンポーネント。

console.page/route
Web コンソールルーターに新しいページを追加します。React Router を参照してください。

名前	値のタイプ	任意	説明
component	**CodeRef<React.ComponentType<RouteComponentProps<{}, StaticContext, any>>>**	いいえ	ルートがマッチしたときにレンダリングされるコンポーネント。
path	**string | string[]**	いいえ	**path-to-regexp@^1.7.0** が理解する有効な URL パスまたはパスの配列。
perspective	**string**	はい	このページが属するパースペクティブ。指定されていない場合は、すべてのパースペクティブに提供します。
exact	**boolean**	はい	true の場合、パスが **location.pathname** と完全に一致する場合にのみマッチします。

console.page/route/standalone
一般的なページレイアウトの外部でレンダリングされる新しいスタンドアロンページを Web コンソールルーターに追加します。React Router を参照してください。

名前	値のタイプ	任意	説明
component	**CodeRef<React.ComponentType<RouteComponentProps<{}, StaticContext, any>>>**	いいえ	ルートがマッチしたときにレンダリングされるコンポーネント。

名前	値のタイプ	任意	説明
path	**string | string[]**	いいえ	**path-to-regexp@^1.7.0** が理解する有効な URL パスまたはパスの配列。
exact	**boolean**	はい	true の場合、パスが **location.pathname** と完全に一致する場合にのみマッチします。

console.perspective
このエクステンションを使用すると、コンソールに新しいパースペクティブを追加してナビゲーションメニューをカスタマイズできます。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	パースペクティブの識別子。
name	**string**	いいえ	パースペクティブの表示名。
icon	**CodeRef<LazyComponent>**	いいえ	パースペクティブの表示アイコン。
landingPageURL	**CodeRef<(flags: { [key: string]: boolean; }, isFirstVisit: boolean) ⇒ string>**	いいえ	パースペクティブのランディングページの URL を取得する関数。
importRedirectURL	**CodeRef<(namespace: string) ⇒ string>**	いいえ	インポートフローのリダイレクト URL を取得する関数。
default	**boolean**	はい	パースペクティブがデフォルトであるかどうか。デフォルトは 1 つのみです。
defaultPins	**ExtensionK8sModel[]**	はい	ナビゲーション上のデフォルトの固定されたリソース
usePerspectiveDetection	**CodeRef<() ⇒ [boolean, boolean]>**	はい	デフォルトのパースペクティブを検出するフック

console.project-overview/inventory-item
新しいインベントリー項目を **プロジェクトの概要** ページに追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
component	**CodeRef<React.ComponentType<{ projectName: string; }>>**	いいえ	レンダリングされるコンポーネント。

console.project-overview/utilization-item
新しいプロジェクト概要の使用状況項目を追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
title	**string**	いいえ	使用状況項目のタイトル。
getUtilizationQuery	**CodeRef<GetProjectQuery>**	いいえ	Prometheus 使用状況クエリー。
humanize	**CodeRef<Humanize>**	いいえ	Prometheus データを人間が判読できる形式に変換します。
getTotalQuery	**CodeRef<GetProjectQuery>**	はい	Prometheus 合計のクエリー。
getRequestQuery	**CodeRef<GetProjectQuery>**	はい	Prometheus 要求のクエリー。
getLimitQuery	**CodeRef<GetProjectQuery>**	はい	Prometheus 制限のクエリー。
TopConsumerPopover	**CodeRef<React.ComponentType<TopConsumerPopoverProps>>**	はい	プレーン値の代わりに最上位のコンシューマーポップオーバーを表示します。

console.pvc/alert
このエクステンションを使用すると、PVC 詳細ページにカスタムアラートを追加できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
alert	**CodeRef<React.ComponentType<{ pvc: K8sResourceCommon; }>>**	いいえ	アラートコンポーネント。

console.pvc/create-prop
このエクステンションを使用すると、PVC リストページで PVC リソースを作成する際に使用される追加のプロパティーを指定できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
label	**string**	いいえ	prop アクション作成のラベル。
path	**string**	いいえ	prop アクション作成のパス。

console.pvc/delete
このエクステンションを使用すると、PVC リソースの削除をフッキングできます。追加情報とカスタム PVC 削除ロジックを含むアラートを追加できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
predicate	**CodeRef<(pvc: K8sResourceCommon) ⇒ boolean>**	いいえ	エクステンションを使用するかどうかを示す述語。
onPVCKill	**CodeRef<(pvc: K8sResourceCommon) ⇒ Promise<void>>**	いいえ	PVC 削除操作の方法。
alert	**CodeRef<React.ComponentType<{ pvc: K8sResourceCommon; }>>**	いいえ	追加情報を表示するアラートコンポーネント。

console.pvc/status

名前	値のタイプ	任意	説明
priority	**number**	いいえ	status コンポーネントの優先度。値が大きいほど優先度が高くなります。
status	**CodeRef<React.ComponentType<{ pvc: K8sResourceCommon; }>>**	いいえ	status コンポーネント。
predicate	**CodeRef<(pvc: K8sResourceCommon) ⇒ boolean>**	いいえ	ステータスコンポーネントをレンダリングするかどうかを示す述語。

console.redux-reducer
plugins.<scope> サブ状態で動作する Console Redux ストアに新しい reducer を追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
scope	**string**	いいえ	Redux 状態オブジェクト内の reducer が管理するサブ状態を表すキー。
reducer	**CodeRef<Reducer<any, AnyAction>>**	いいえ	reducer が管理するサブ状態で動作する reducer 関数

console.resource/create
このエクステンションを使用すると、プラグインは、ユーザーが新しいリソースインスタンスを作成しようとしたときにレンダリングされる特定のリソースのカスタムコンポーネント (つまりウィザードやフォーム) を追加できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
model	**ExtensionK8sModel**	いいえ	この create resource ページがレンダリングされるモデル。
component	**CodeRef<React.ComponentType<CreateResourceComponentProps>>**	いいえ	モデルがマッチする場合にレンダリングされるコンポーネント

console.storage-class/provisioner
ストレージクラスの作成時に、新しいストレージクラスプロビジョナーをオプションとして追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
CSI	**ProvisionerDetails**	はい	Container Storage Interface プロビジョナータイプ
OTHERS	**ProvisionerDetails**	はい	Other プロビジョナータイプ

console.storage-provider
このエクステンションを使用すると、ストレージおよびプロバイダー固有のコンポーネントをアタッチする際に、新しいストレージプロバイダーを追加できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
name	**string**	いいえ	プロバイダーの表示名。
コンポーネント	**CodeRef<React.ComponentType<Partial<RouteComponentProps<{}, StaticContext, any>>>>**	いいえ	レンダリングするプロバイダー固有のコンポーネント。

console.tab
水平ナビゲーションに、**contextId** に一致するタブを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
contextId	**string**	いいえ	タブが挿入される水平ナビゲーションに割り当てられるコンテキスト ID。使用できる値: **dev-console-observe**
name	**string**	いいえ	タブの表示ラベル
href	**string**	いいえ	既存の URL に追加される **href**
component	**CodeRef<React.ComponentType<PageComponentProps<K8sResourceCommon>>>**	いいえ	タブコンテンツのコンポーネント。

console.tab/horizontalNav
このエクステンションを使用すると、リソースの詳細ページにタブを追加できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
model	**ExtensionK8sKindVersionModel**	いいえ	このプロバイダーがタブを表示するモデル。
page	**{ name: string; href: string; }**	いいえ	水平タブに表示されるページ。名前としてタブ名およびタブの href を取ります。

名前	値のタイプ	任意	説明
component	**CodeRef<React.ComponentType<PageComponentProps<K8sResourceCommon>>>**	いいえ	ルートがマッチしたときにレンダリングされるコンポーネント。

console.telemetry/listener
このコンポーネントは、テレメトリーイベントを受信するリスナー関数を登録するために使用できます。これらのイベントには、ユーザー識別、ページナビゲーション、その他のアプリケーション固有のイベントが含まれます。リスナーは、このデータをレポートと分析のために使用できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
listener	**CodeRef<TelemetryEventListener>**	いいえ	テレメトリーイベントをリッスンします

console.topology/adapter/build
BuildAdapter は、Build コンポーネントで使用できるデータに要素を適応させるアダプターを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
adapt	**CodeRef<(element: GraphElement) ⇒ AdapterDataType<BuildConfigData> | undefined>**	いいえ	Build コンポーネントで使用できるデータに要素を適応させるアダプター。

console.topology/adapter/network
NetworkAdapater は、**Networking** コンポーネントで使用できるデータに要素を適応させるアダプターを提供します。

名前	値のタイプ	任意	説明
adapt	**CodeRef<(element: GraphElement) ⇒ NetworkAdapterType | undefined>**	いいえ	Networking コンポーネントで使用できるデータに要素を適応させるアダプター。

console.topology/adapter/pod
PodAdapter はアダプターを提供し、**Pod** コンポーネントで使用できるデータに要素を適合させます。

名前	値のタイプ	任意	説明
adapt	**CodeRef<(element: GraphElement) ⇒ AdapterDataType<PodsAdapterDataType> | undefined>**	いいえ	Pod コンポーネントで使用できるデータに要素を適応させるアダプター。

console.topology/component/factory
ViewComponentFactory の Getter。

名前	値のタイプ	任意	説明
getFactory	**CodeRef<ViewComponentFactory>**	いいえ	**ViewComponentFactory** の Getter。

console.topology/create/connector
コネクター作成関数の getter。

名前	値のタイプ	任意	説明
getCreateConnector	**CodeRef<CreateConnectionGetter>**	いいえ	コネクター作成関数の getter。

console.topology/data/factory
トポロジーデータモデルファクトリーエクステンション

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	ファクトリーの一意の ID。
priority	**number**	いいえ	ファクトリーの優先度
resources	**WatchK8sResourcesGeneric**	はい	**useK8sWatchResources** フックから取得されるリソース。
workloadKeys	**string[]**	はい	ワークロードが含まれるリソースのキー。
getDataModel	**CodeRef<TopologyDataModelGetter>**	はい	データモデルファクトリーの Getter。

名前	値のタイプ	任意	説明
isResourceDepicted	**CodeRef<TopologyDataModelDepicted>**	はい	リソースがこのモデルファクトリーによって記述されているかどうかを判断する関数の Getter。
getDataModelReconciler	**CodeRef<TopologyDataModelReconciler>**	はい	すべてのエクステンションのモデルがロードされた後にデータモデルを調整する関数の Getter。

console.topology/decorator/provider
トポロジーデコレータープロバイダーエクステンション

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	エクステンション固有のトポロジーデコレーターの ID
priority	**number**	いいえ	エクステンション固有のトポロジーデコレーターの優先順位
quadrant	**TopologyQuadrant**	いいえ	エクステンション固有のトポロジーデコレーターのクアドラント
decorator	**CodeRef<TopologyDecoratorGetter>**	いいえ	エクステンション固有のデコレーター

console.topology/details/resource-alert
DetailsResourceAlert は、特定のトポロジーコンテキストまたはグラフ要素のアラートを提供します。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	このアラートの ID。アラートの破棄後に表示しない場合に状態を保存するために使用されます。
contentProvider	**CodeRef<(element: GraphElement) ⇒ DetailsResourceAlertContent | null>**	いいえ	アラートの内容を返すフック。

console.topology/details/resource-link
DetailsResourceLink は、特定のトポロジーコンテキストまたはグラフ要素のリンクを提供します。

名前	値のタイプ	任意	説明
link	**CodeRef<(element: GraphElement) ⇒ React.Component | undefined>**	いいえ	指定された場合はリソースリンクを返し、指定されない場合は未定義を返します。スタイルには **ResourceIcon** および **ResourceLink** プロパティーを使用します。
priority	**number**	はい	優先度の高いファクトリーからリンクを作成します。

console.topology/details/tab
DetailsTab は、トポロジーの詳細パネルのタブを提供します。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	この詳細タブの一意の識別子。
label	**string**	いいえ	UI に表示されるタブのラベル。
insertBefore	**string | string[]**	はい	ここで参照される項目の前に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。
insertAfter	**string | string[]**	はい	ここで参照される項目の後に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。**insertBefore** 値が優先されます。

console.topology/details/tab-section
DetailsTabSection は、トポロジーの詳細パネルの特定タブのセクションを提供します。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	この詳細タブセクションの一意の識別子。

名前	値のタイプ	任意	説明
tab	**string**	いいえ	このセクションが提供する必要のある親タブ ID。
provider	**CodeRef<DetailsTabSectionExtensionHook>**	いいえ	コンポーネントを返すフック、または null か未定義の場合、トポロジーサイドバーにレンダリングされます。SDK コンポーネント: **<Section title=\{}>…** パディング領域
section	**CodeRef<(element: GraphElement, renderNull?: () ⇒ null) ⇒ React.Component | undefined>**	いいえ	非推奨: プロバイダーが定義されていない場合はフォールバックします。renderNull はすでに no-op です。
insertBefore	**string | string[]**	はい	ここで参照される項目の前に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。
insertAfter	**string | string[]**	はい	ここで参照される項目の後に、この項目を挿入します。配列の場合は、最初に見つかったものが順番に使用されます。**insertBefore** 値が優先されます。

console.topology/display/filters
トポロジー表示フィルターエクステンション

名前	値のタイプ	任意	説明
getTopologyFilters	**CodeRef<() ⇒ TopologyDisplayOption[]>**	いいえ	エクステンション固有のトポロジーフィルターのゲッター
applyDisplayOptions	**CodeRef<TopologyApplyDisplayOptions>**	いいえ	モデルにフィルターを適用する関数

console.topology/relationship/provider
トポロジー関係プロバイダーコネクターエクステンション

名前	値のタイプ	任意	説明
provides	**CodeRef<RelationshipProviderProvides>**	いいえ	ソースノードとターゲットノード間に接続を作成できるか判断するために使用
ヒント	**string**	いいえ	コネクター操作がドロップターゲット上に移動したときに表示されるツールヒント (例: "Create a Visual Connector")
create	**CodeRef<RelationshipProviderCreate>**	いいえ	接続を作成するためにコネクターがターゲットノード上にドロップされると実行されるコールバック
priority	**number**	いいえ	関係の優先順位。複数の場合は高い方が優先されます

console.user-preference/group
このエクステンションを使用して、console user-preferences ページにグループを追加できます。console user-preferences ページの垂直タブのオプションとして表示されます。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	ユーザー設定グループを識別するのに使用される ID。
label	**string**	いいえ	ユーザー設定グループのラベル
insertBefore	**string**	はい	このユーザー設定グループの後に配置しなければならないグループの ID
insertAfter	**string**	はい	このユーザー設定グループの前に配置しなければならないグループの ID

console.user-preference/item
このエクステンションを使用して、console user-preferences ページのユーザー設定グループに項目を追加できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	ユーザー設定項目を特定するために使用され、項目の順序を定義するために insertAfter および insertBefore で参照される ID
label	**string**	いいえ	ユーザー設定のラベル
description	**string**	いいえ	ユーザー設定の説明
field	**UserPreferenceField**	いいえ	ユーザー設定を定義するために値をレンダリングするために使用される入力フィールドのオプション
groupId	**string**	はい	項目が属するユーザー優先グループを識別するために使用される ID
insertBefore	**string**	はい	このユーザー設定項目の後に配置しなければならない項目の ID
insertAfter	**string**	はい	このユーザー設定項目の前に配置しなければならない項目の ID

console.yaml-template
yaml エディターを使用してリソースを編集するための YAML テンプレート。

名前	値のタイプ	任意	説明
model	**ExtensionK8sModel**	いいえ	テンプレートに関連付けられたモデル。
template	**CodeRef<string>**	いいえ	YAML テンプレート。
name	**string**	いいえ	テンプレートの名前。名前 **default** を使用して、これをデフォルトテンプレートと識別します。

dev-console.add/action

このエクステンションを使用すると、プラグインは開発者パースペクティブの add ページに追加アクション項目を追加できます。たとえば、Serverless プラグインは、開発者コンソールの add ページにサーバーレス関数の新しい追加項目を追加できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	アクションを識別するための ID。
label	**string**	いいえ	アクションのラベル。
description	**string**	いいえ	アクションの説明。
href	**string**	いいえ	移動先の **href**。
groupId	**string**	はい	アクションが属するアクショングループを識別するのに使用される ID。
icon	**CodeRef<React.ReactNode>**	はい	パースペクティブの表示アイコン。
accessReview	**AccessReviewResourceAttributes[]**	はい	アクションの可視性または有効化を制御するオプションのアクセスレビュー。

dev-console.add/action-group
この拡張機能を使用すると、プラグインは開発者コンソールの add ページにグループを追加できます。グループはアクションが参照でき、アクションはエクステンションの定義に基づき add action ページでグループ化されます。たとえば、Serverless プラグインは、Serverless グループと複数の追加アクションを追加できます。

名前	値のタイプ	任意	説明
id	**string**	いいえ	アクショングループを識別するために使用される ID
name	**string**	いいえ	アクショングループのタイトル
insertBefore	**string**	はい	このアクショングループの後に配置しなければならないグループの ID
insertAfter	**string**	はい	このアクショングループの前に配置しなければならないグループの ID

dev-console.import/environment
このエクステンションを使用すると、開発者コンソール git インポートフォームのビルダーイメージセレクターで追加のビルド環境変数フィールドを指定できます。これを設定すると、フィールドはビルドセクション内の同じ名前の環境変数をオーバーライドします。

名前	値のタイプ	任意	説明
imageStreamName	**string**	いいえ	カスタム環境変数を指定するイメージストリームの名前
imageStreamTags	**string[]**	いいえ	サポートされるイメージストリームタグのリスト
environments	**ImageEnvironment[]**	いいえ	環境変数のリスト

console.dashboards/overview/detail/item
非推奨になりました。代わりに **CustomOverviewDetailItem** タイプを使用してください。

名前	値のタイプ	任意	説明
component	**CodeRef<React.ComponentType<{}>>**	いいえ	**DetailItem** コンポーネントに基づく値

console.page/resource/tab
非推奨。代わりに **console.tab/horizontalNav** を使用してください。Console ルーターに新しいリソースタブページを追加します。

名前	値のタイプ	任意	説明
model	**ExtensionK8sGroupKindModel**	いいえ	このリソースページがリンクするモデル。
component	**CodeRef<React.ComponentType<RouteComponentProps<{}, StaticContext, any>>>**	いいえ	ルートがマッチしたときにレンダリングされるコンポーネント。
name	**string**	いいえ	タブの名前。
href	**string**	はい	タブリンクのオプション **href**。指定しない場合は、最初の **path** が使用されます。

名前	値のタイプ	任意	説明
exact	**boolean**	はい	true の場合、パスが **location.pathname** と完全に一致する場合にのみマッチします。

7.5.2. OpenShift Container Platform コンソール API

useActivePerspective
現在アクティブなパースペクティブとアクティブなパースペクティブを設定するためのコールバックを提供するフック。現在アクティブなパースペクティブとセッターコールバックを含むタプルを返します。

例

```
const Component: React.FC = (props) => {
  const [activePerspective, setActivePerspective] = useActivePerspective();
  return <select
    value={activePerspective}
    onChange={(e) => setActivePerspective(e.target.value)}
  >
    {
      // ...perspective options
    }
  </select>
}
```

GreenCheckCircleIcon
緑色のチェックマークの円形アイコンを表示するためのコンポーネント。

例

```
<GreenCheckCircleIcon title="Healthy" />
```

パラメーター名	説明
className	(オプション) コンポーネントの追加クラス名
title	(オプション) アイコンのタイトル
size	(オプション) アイコンのサイズ: (**sm**、**md**、**lg**、**xl**)

RedExclamationCircleIcon
赤い感嘆符の円形アイコンを表示するためのコンポーネント。

例

```
<RedExclamationCircleIcon title="Failed" />
```

パラメーター名	説明
className	(オプション) コンポーネントの追加クラス名
title	(オプション) アイコンのタイトル
size	(オプション) アイコンのサイズ: (**sm**、**md**、**lg**、**xl**)

YellowExclamationTriangleIcon
黄色の三角形の感嘆符アイコンを表示するためのコンポーネント。

例

```
<YellowExclamationTriangleIcon title="Warning" />
```

パラメーター名	説明
className	(オプション) コンポーネントの追加クラス名
title	(オプション) アイコンのタイトル
size	(オプション) アイコンのサイズ: (**sm**、**md**、**lg**、**xl**)

BlueInfoCircleIcon
青い情報円形アイコンを表示するためのコンポーネント。

例

```
<BlueInfoCircleIcon title="Info" />
```

パラメーター名	説明
className	(オプション) コンポーネントの追加クラス名
title	(オプション) アイコンのタイトル
size	(オプション) アイコンのサイズ: ('sm'、'md'、'lg'、'xl')

ErrorStatus
エラーステータスのポップオーバーを表示するためのコンポーネント。

例

```
<ErrorStatus title={errorMsg} />
```

パラメーター名	説明
title	(オプション) ステータステキスト
iconOnly	(オプション) true の場合、アイコンのみを表示します
noTooltip	(オプション) true の場合、ツールチップは表示されません
className	(オプション) コンポーネントの追加クラス名
popoverTitle	(オプション) ポップオーバーのタイトル

InfoStatus
情報ステータスのポップオーバーを表示するためのコンポーネント。

例

```
<InfoStatus title={infoMsg} />
```

パラメーター名	説明
title	(オプション) ステータステキスト
iconOnly	(オプション) true の場合、アイコンのみを表示します
noTooltip	(オプション) true の場合、ツールチップは表示されません
className	(オプション) コンポーネントの追加クラス名
popoverTitle	(オプション) ポップオーバーのタイトル

ProgressStatus
進行状況のポップオーバーを表示するためのコンポーネント。

例

```
<ProgressStatus title={progressMsg} />
```

パラメーター名	説明
title	(オプション) ステータステキスト

パラメーター名	説明
iconOnly	(オプション) true の場合、アイコンのみを表示します
noTooltip	(オプション) true の場合、ツールチップは表示されません
className	(オプション) コンポーネントの追加クラス名
popoverTitle	(オプション) ポップオーバーのタイトル

SuccessStatus
成功ステータスのポップオーバーを表示するためのコンポーネント。

例

```
<SuccessStatus title={successMsg} />
```

パラメーター名	説明
title	(オプション) ステータステキスト
iconOnly	(オプション) true の場合、アイコンのみを表示します
noTooltip	(オプション) true の場合、ツールチップは表示されません
className	(オプション) コンポーネントの追加クラス名
popoverTitle	(オプション) ポップオーバーのタイトル

checkAccess
特定のリソースへのユーザーアクセスに関する情報を提供します。リソースアクセス情報を含むオブジェクトを返します。

パラメーター名	説明
resourceAttributes	アクセスレビューのリソース属性
切り替え	権限借用の詳細

useAccessReview
特定のリソースへのユーザーアクセスに関する情報を提供するフック。**isAllowed** と **loading** 値を含む配列を返します。

パラメーター名	説明
resourceAttributes	アクセスレビューのリソース属性
切り替え	権限借用の詳細

useResolvedExtensions
解決された **CodeRef** プロパティーで Console 拡張機能を使用するための React フック。このフックは、**useExtensions** フックと同じ引数を受け入れ、拡張インスタンスの適合したリストを返し、各拡張のプロパティー内のすべてのコード参照を解決します。

最初に、フックは空の配列を返します。解決が完了すると、React コンポーネントが再レンダリングされ、適合した拡張機能のリストが返されます。一致する拡張子のリストが変更されると、解決が再開されます。解決が完了するまで、フックは前の結果を返し続けます。

フックの結果要素は、再レンダリング全体で参照的に安定していることが保証されています。解決されたコード参照、解決が完了したかどうかを示すブール値フラグ、および解決中に検出されたエラーのリストを含む適応拡張インスタンスのリストを含むタプルを返します。

例

```
const [navItemExtensions, navItemsResolved] = useResolvedExtensions<NavItem>(isNavItem);
// process adapted extensions and render your component
```

パラメーター名	説明
typeGuards	それぞれが動的プラグイン拡張機能を引数として受け入れ、拡張機能が目的の型制約を満たしているかどうかを示すブール値フラグを返すコールバックのリスト

HorizontalNav
ページのナビゲーションバーを作成するコンポーネント。ルーティングはコンポーネントの一部として処理されます。**console.tab/horizontalNav** を使用すると、水平ナビゲーションにコンテンツを追加できます。

例

```
const HomePage: React.FC = (props) => {
  const page = {
    href: '/home',
    name: 'Home',
    component: () => <>Home</>
  }
  return <HorizontalNav match={props.match} pages={[page]} />
}
```

パラメーター名	説明
resource	K8sResourceCommon タイプのオブジェクトである、このナビゲーションに関連付けられたリソース
pages	ページオブジェクトの配列
match	React Router が提供する match オブジェクト

VirtualizedTable
仮想化されたテーブルを作成するためのコンポーネント。

例

```
const MachineList: React.FC<MachineListProps> = (props) => {
  return (
    <VirtualizedTable<MachineKind>
     {...props}
     aria-label='Machines'
     columns={getMachineColumns}
     Row={getMachineTableRow}
    />
  );
}
```

パラメーター名	説明
data	テーブルのデータ
loaded	データがロードされたことを示すフラグ
loadError	データのロードで問題が発生した場合のエラーオブジェクト
列	列の設定
行	行の設定
unfilteredData	フィルターなしの元のデータ
NoDataEmptyMsg	(オプション) データのない空のメッセージコンポーネント
EmptyMsg	(オプション) 空のメッセージコンポーネント
scrollNode	(オプション) スクロールを処理する関数

パラメーター名	説明
label	(オプション) テーブルのラベル
ariaLabel	(オプション) aria ラベル
gridBreakPoint	応答性のためにグリッドを分割する方法のサイジング
onSelect	(オプション) テーブルの選択を処理する関数
rowData	(オプション) 行に固有のデータ

TableData
テーブル行内にテーブルデータを表示するためのコンポーネント。

例

```
const PodRow: React.FC<RowProps<K8sResourceCommon>> = ({ obj, activeColumnIDs }) => {
  return (
    <>
      <TableData id={columns[0].id} activeColumnIDs={activeColumnIDs}>
        <ResourceLink kind="Pod" name={obj.metadata.name} namespace={obj.metadata.namespace}
/>
      </TableData>
      <TableData id={columns[1].id} activeColumnIDs={activeColumnIDs}>
        <ResourceLink kind="Namespace" name={obj.metadata.namespace} />
      </TableData>
    </>
  );
};
```

パラメーター名	説明
id	テーブルの一意の ID
activeColumnIDs	アクティブな列
className	(オプション) スタイリングのオプションクラス名

useActiveColumns
ユーザーが選択したアクティブな TableColumns のリストを提供するフック。

例

```
// See implementation for more details on TableColumn type
  const [activeColumns, userSettingsLoaded] = useActiveColumns({
    columns,
```

```
    showNamespaceOverride: false,
    columnManagementID,
  });
  return userSettingsAreLoaded ? <VirtualizedTable columns={activeColumns} {...otherProps} /> : null
```

パラメーター名	説明
options	キーと値のマップとして渡されるもの。
\{TableColumn[]} options.columns	使用可能なすべての TableColumn の配列
{boolean} [options.showNamespaceOverride]	(オプション) true の場合、列管理の選択に関係なく namespace 列が含まれます
{string} [options.columnManagementID]	(オプション) ユーザー設定との間で列管理の選択を保持および取得するために使用される一意の ID。通常は、リソースのグループ/バージョン/種類 (GVK) の文字列です。

現在のユーザーが選択したアクティブな列 (options.columns のサブセット) と、ユーザー設定がロードされたかどうかを示すブール値フラグを含むタプル。

ListPageHeader
ページヘッダーを生成するためのコンポーネント。

例

```
const exampleList: React.FC = () => {
  return (
    <>
      <ListPageHeader title="Example List Page"/>
    </>
  );
};
```

パラメーター名	説明
title	見出しタイトル
helpText	(オプション) 反応ノードとしてのヘルプセクション
badge	(オプション) 反応ノードとしてのバッジアイコン

ListPageCreate
特定のリソースの種類に対して、そのリソースの作成用 YAML へのリンクを自動的に生成する作成ボタンを追加するためのコンポーネント。

例

```
const exampleList: React.FC<MyProps> = () => {
  return (
    <>
      <ListPageHeader title="Example Pod List Page"/>
        <ListPageCreate groupVersionKind="Pod">Create Pod</ListPageCreate>
      </ListPageHeader>
    </>
  );
};
```

パラメーター名	説明
groupVersionKind	表すためのリソースグループ/バージョン/種類

ListPageCreateLink
定型化されたリンクを作成するためのコンポーネント。

例

```
const exampleList: React.FC<MyProps> = () => {
 return (
  <>
   <ListPageHeader title="Example Pod List Page"/>
     <ListPageCreateLink to={'/link/to/my/page'}>Create Item</ListPageCreateLink>
   </ListPageHeader>
  </>
 );
};
```

パラメーター名	説明
to	リンク先の文字列の場所
createAccessReview	(オプション) アクセスを決定するために使用される namespace と種類を持つオブジェクト
children	(オプション) コンポーネントの子

ListPageCreateButton
ボタンを作成するためのコンポーネント。

例

```
const exampleList: React.FC<MyProps> = () => {
  return (
    <>
      <ListPageHeader title="Example Pod List Page"/>
        <ListPageCreateButton createAccessReview={access}>Create Pod</ListPageCreateButton>
      </ListPageHeader>
```

```
    </>
  );
};
```

パラメーター名	説明
createAccessReview	(オプション) アクセスを決定するために使用される namespace と種類を持つオブジェクト
pfButtonProps	(オプション) Patternfly Button のプロパティー

ListPageCreateDropdown
権限チェックでラップされたドロップダウンを作成するためのコンポーネント。

例

```
const exampleList: React.FC<MyProps> = () => {
  const items = {
    SAVE: 'Save',
    DELETE: 'Delete',
  }
  return (
    <>
     <ListPageHeader title="Example Pod List Page"/>
       <ListPageCreateDropdown createAccessReview={access}
items={items}>Actions</ListPageCreateDropdown>
     </ListPageHeader>
    </>
  );
};
```

パラメーター名	説明
items	key: ドロップダウンコンポーネントに表示する項目の ReactNode のペア
onClick	ドロップダウン項目をクリックするためのコールバック関数
createAccessReview	(オプション) アクセスを決定するために使用される namespace と種類を持つオブジェクト
children	(オプション) ドロップダウントグルの子

ListPageFilter
リストページのフィルターを生成するコンポーネント。

例

```
// See implementation for more details on RowFilter and FilterValue types
```

```
  const [staticData, filteredData, onFilterChange] = useListPageFilter(
    data,
    rowFilters,
    staticFilters,
  );
  // ListPageFilter updates filter state based on user interaction and resulting filtered data can be
rendered in an independent component.
  return (
    <>
      <ListPageHeader .../>
      <ListPagBody>
        <ListPageFilter data={staticData} onFilterChange={onFilterChange} />
        <List data={filteredData} />
      </ListPageBody>
    </>
  )
```

パラメーター名	説明
data	データポイントの配列
loaded	データがロードされたことを示します
onFilterChange	フィルター更新時のコールバック関数
rowFilters	(オプション) 利用可能なフィルターオプションを定義する RowFilter 要素の配列
nameFilterPlaceholder	(オプション) 名前フィルターのプレースホルダー
labelFilterPlaceholder	(オプション) ラベルフィルターのプレースホルダー
hideLabelFilter	(オプション) 名前フィルターとラベルフィルターの両方ではなく、名前フィルターのみを表示します。
hideNameLabelFilter	(オプション) 名前フィルターとラベルフィルターの両方を非表示にします。
columnLayout	(オプション) 列レイアウトオブジェクト
hideColumnManagement	(オプション) 列管理を非表示にするフラグ

useListPageFilter
ListPageFilter コンポーネントのフィルター状態を管理するフック。すべての静的フィルターによってフィルター処理されたデータ、すべての静的フィルターと行フィルターによってフィルター処理されたデータ、および rowFilters を更新するコールバックを含むタプルを返します。

例

```
  // See implementation for more details on RowFilter and FilterValue types
```

```
  const [staticData, filteredData, onFilterChange] = useListPageFilter(
    data,
    rowFilters,
    staticFilters,
  );
  // ListPageFilter updates filter state based on user interaction and resulting filtered data can be
rendered in an independent component.
  return (
    <>
      <ListPageHeader .../>
      <ListPagBody>
        <ListPageFilter data={staticData} onFilterChange={onFilterChange} />
        <List data={filteredData} />
      </ListPageBody>
    </>
  )
```

パラメーター名	説明
data	データポイントの配列
rowFilters	(オプション) 利用可能なフィルターオプションを定義する RowFilter 要素の配列
staticFilters	(オプション) データに静的に適用される FilterValue 要素の配列

ResourceLink
アイコンバッジを使用して特定のリソースタイプへのリンクを作成するコンポーネント。

例

```
  <ResourceLink
     kind="Pod"
     name="testPod"
     title={metadata.uid}
  />
```

パラメーター名	説明
kind	(オプション) リソースの種類、つまり Pod、Deployment、Namespace
groupVersionKind	(オプション) グループ、バージョン、および種類を含むオブジェクト
className	(オプション) コンポーネントのクラススタイル

パラメーター名	説明
displayName	(オプション) コンポーネントの表示名。設定されている場合は、リソース名を上書きします。
inline	(オプション) アイコンバッジを作成し、子とインラインで名前を付けるためのフラグ
linkTo	(オプション) Link オブジェクトを作成するためのフラグ - デフォルトは true
name	(オプション) リソースの名前
namesapce	(オプション) リンク先の種類のリソースの特定の namespace
hideIcon	(オプション) アイコンバッジを非表示にするフラグ
title	(オプション) リンクオブジェクトのタイトル (非表示)
dataTest	(オプション) テスト用の識別子
onClick	(オプション) コンポーネントがクリックされたときのコールバック関数
truncate	(オプション) リンクが長すぎる場合に切り捨てるフラグ

ResourceIcon
特定のリソースタイプのアイコンバッジを作成するコンポーネント。

例

```
<ResourceIcon kind="Pod"/>
```

パラメーター名	説明
kind	(オプション) リソースの種類、つまり Pod、Deployment、Namespace
groupVersionKind	(オプション) グループ、バージョン、および種類を含むオブジェクト
className	(オプション) コンポーネントのクラススタイル

useK8sModel
指定された K8sGroupVersionKind の k8s モデルを redux から取得するフック。最初の項目が k8s モデル、2 番目の項目が **inFlight** ステータスの配列を返します。

例

```
const Component: React.FC = () => {
  const [model, inFlight] = useK8sModel({ group: 'app'; version: 'v1'; kind: 'Deployment' });
  return ...
}
```

パラメーター名	説明
groupVersionKind	k8s リソースのグループ、バージョン、種類。K8sGroupVersionKind が推奨されます。もしくは、グループ、バージョン、種類の参照 (例: group/version/kind (GVK) K8sResourceKindReference.) を渡すこともできますが、これは非推奨です。

useK8sModels
redux から現在のすべての k8s モデルを取得するフック。最初の項目が k8s モデルのリストで、2 番目の項目が **inFlight** ステータスの配列を返します。

例

```
const Component: React.FC = () => {
  const [models, inFlight] = UseK8sModels();
  return ...
}
```

useK8sWatchResource
ロード済みおよびエラーのステータスとともに k8s リソースを取得するフック。最初の項目がリソース、2 番目の項目がロード済みステータス、3 番目の項目がエラー状態 (存在する場合) の配列を返します。

例

```
const Component: React.FC = () => {
  const watchRes = {
        ...
      }
  const [data, loaded, error] = useK8sWatchResource(watchRes)
  return ...
}
```

パラメーター名	説明
initResource	リソースを監視するために必要なオプション。

useK8sWatchResources
ロード済みおよびエラーのそれぞれのステータスとともに k8s リソースを取得するフック。キーが initResouces で提供され、値が data、loaded、error の 3 つのプロパティーを持つマップを返します。

例

```
const Component: React.FC = () => {
  const watchResources = {
        'deployment': {...},
        'pod': {...}
        ...
      }
  const {deployment, pod} = useK8sWatchResources(watchResources)
  return ...
}
```

パラメーター名	説明
initResources	リソースはキーと値のペアとして監視する必要があります。ここで、キーはリソースに固有であり、値はそれぞれのリソースを監視するために必要なオプションです。

consoleFetch
コンソール固有のヘッダーを追加し、再試行とタイムアウトを可能にする **fetch** のカスタムラッパー。また、応答ステータスコードを検証し、適切なエラーを出力するか、必要に応じてユーザーをログアウトします。レスポンスに解決される promise を返します。

パラメーター名	説明
url	取得する URL
options	フェッチに渡すオプション
timeout	ミリ秒単位のタイムアウト

consoleFetchJSON
コンソール固有のヘッダーを追加し、再試行とタイムアウトを可能にする **fetch** のカスタムラッパー。また、応答ステータスコードを検証し、適切なエラーを出力するか、必要に応じてユーザーをログアウトします。応答を JSON オブジェクトとして返します。内部で **consoleFetch** を使用します。JSON オブジェクトとして応答に解決される promise を返します。

パラメーター名	説明
url	取得する URL
メソッド	使用する HTTP メソッドデフォルトは GET です。
options	フェッチに渡すオプション

パラメーター名	説明
timeout	ミリ秒単位のタイムアウト
cluster	リクエストを行うクラスターの名前。デフォルトは、ユーザーが選択したアクティブなクラスターです

consoleFetchText
コンソール固有のヘッダーを追加し、再試行とタイムアウトを可能にする **fetch** のカスタムラッパー。また、応答ステータスコードを検証し、適切なエラーを出力するか、必要に応じてユーザーをログアウトします。応答をテキストとして返します。内部で **consoleFetch** を使用します。テキストとして応答に解決される promise を返します。

パラメーター名	説明
url	取得する URL
options	フェッチに渡すオプション
timeout	ミリ秒単位のタイムアウト
cluster	リクエストを行うクラスターの名前。デフォルトは、ユーザーが選択したアクティブなクラスターです

getConsoleRequestHeaders
redux の現在の状態を使用して、API 要求の偽装およびマルチクラスター関連のヘッダーを作成する関数。redux の状態に基づき、適切な偽装とクラスター要求ヘッダーを含むオブジェクトを返します。

パラメーター名	説明
targetCluster	指定された targetCluster で現在アクティブなクラスターをオーバーライドします

k8sGetResource
指定されたオプションに基づいて、クラスターからリソースを取得します。名前が指定されている場合は、1 つのリソースが返されます。それ以外の場合は、モデルに一致するすべてのリソースが返されます。名前が指定されている場合、リソースを含む JSON オブジェクトとして応答に解決される promise を返します。それ以外の場合は、モデルに一致するすべてのリソースを返します。失敗した場合、promise は HTTP エラー応答で拒否されます。

パラメーター名	説明
options	マップでキーと値のペアとして渡されるもの。
options.model	k8s モデル

パラメーター名	説明
options.name	リソースの名前。指定しない場合は、モデルに一致するすべてのリソースが検索されます。
options.ns	検索先の namespace。cluster-scoped リソースには指定しないでください。
options.path	指定されている場合はサブパスとして追加します
options.queryParams	URL に含めるクエリーパラメーター。
options.requestInit	使用する fetch init オブジェクト。これには、リクエストヘッダー、メソッド、リダイレクトなどを含めることができます。詳細は、Interface RequestInit を参照してください。

k8sCreateResource
指定されたオプションに基づいて、クラスター内にリソースを作成します。作成されたリソースの応答に解決される promise を返します。失敗した場合、promise は HTTP エラー応答で拒否されます。

パラメーター名	説明
options	マップでキーと値のペアとして渡されるもの。
options.model	k8s モデル
options.data	作成されるリソースのペイロード
options.path	指定されている場合はサブパスとして追加します
options.queryParams	URL に含めるクエリーパラメーター。

k8sUpdateResource
指定されたオプションに基づいて、クラスター内のリソース全体を更新します。クライアントが既存のリソースを完全に置き換える必要がある場合、k8sUpdate を使用できます。または、k8sPatch を使用して部分的な更新を実行することもできます。更新されたリソースの応答に解決される promise を返します。失敗した場合、promise は HTTP エラー応答で拒否されます。

パラメーター名	説明
options	マップでキーと値のペアとして渡されます
options.model	k8s モデル
options.data	更新する k8s リソースのペイロード

パラメーター名	説明
options.ns	検索先の namespace。cluster-scoped リソースには指定しないでください。
options.name	更新するリソース名。
options.path	指定されている場合はサブパスとして追加します
options.queryParams	URL に含めるクエリーパラメーター。

k8sPatchResource
指定されたオプションに基づいて、クラスター内の任意のリソースにパッチを適用します。クライアントが部分的な更新を実行する必要がある場合、k8sPatch を使用できます。または、k8sUpdate を使用して、既存のリソースを完全に置き換えることもできます。詳細は、Data Tracker を参照してください。パッチが適用されたリソースの応答に解決される promise を返します。失敗した場合、promise は HTTP エラー応答で拒否されます。

パラメーター名	説明
options	マップでキーと値のペアとして渡されるもの。
options.model	k8s モデル
options.resource	パッチを適用するリソース。
options.data	操作、パス、および値を含む既存のリソースにパッチを適用するデータのみ。
options.path	指定されている場合はサブパスとして追加します。
options.queryParams	URL に含めるクエリーパラメーター。

k8sDeleteResource
指定されたモデル、リソースに基づいて、クラスターからリソースを削除します。ガベージコレクションは **Foreground|Background** に基づいて機能し、指定されたモデルの propagationPolicy プロパティーで設定するか、json で渡すことができます。種類が Status のレスポンスに解決される promise を返します。失敗した場合、promise は HTTP エラー応答で拒否されます。

例

kind: 'DeleteOptions', apiVersion: 'v1', propagationPolicy

パラメーター名	説明
options	マップでキーと値のペアとして渡されるもの。

パラメーター名	説明
options.model	k8s モデル
options.resource	削除するリソース。
options.path	指定されている場合はサブパスとして追加します
options.queryParams	URL に含めるクエリーパラメーター。
options.requestInit	使用する fetch init オブジェクト。これには、リクエストヘッダー、メソッド、リダイレクトなどを含めることができます。詳細は、Interface RequestInit を参照してください。
options.json	リソースのガベージコレクションを明示的に制御できます。それ以外の場合は、モデルの propagationPolicy がデフォルトになります。

k8sListResource
指定されたオプションに基づいて、リソースをクラスター内の配列として一覧表示します。レスポンスに解決される promise を返します。

パラメーター名	説明
options	マップでキーと値のペアとして渡されるもの。
options.model	k8s モデル
options.queryParams	URL に含めるクエリーパラメーター。ラベルセレクターおよび "labelSelector" キーと併せて渡すことができます。
options.requestInit	使用する fetch init オブジェクト。これには、リクエストヘッダー、メソッド、リダイレクトなどを含めることができます。詳細は、Interface RequestInit を参照してください。

k8sListResourceItems
k8sListResource と同じインターフェイスですが、サブ項目を返します。モデルの apiVersion、つまり **group/version** を返します。

getAPIVersionForModel
k8s モデルの apiVersion を提供します。

パラメーター名	説明
model	k8s モデル

getGroupVersionKindForResource
リソースのグループ、バージョン、および種類を提供します。指定されたリソースのグループ、バージョン、種類を返します。リソースに API グループがない場合は、グループ "core" が返されます。リソースの apiVersion が無効な場合は、エラーが出力されます。

パラメーター名	説明
resource	k8s リソース

getGroupVersionKindForModel
k8s モデルのグループ、バージョン、および種類を提供します。これは、提供されたモデルのグループ、バージョン、種類を返します。モデルに apiGroup がない場合、グループ core が返されます。

パラメーター名	説明
model	k8s モデル

StatusPopupSection
ポップアップウィンドウでステータスを表示するコンポーネント。**console.dashboards/overview/health/resource** 拡張機能を構築するための便利なコンポーネント。

例

```
<StatusPopupSection
  firstColumn={
    <>
      <span>{title}</span>
      <span className="text-secondary">
        My Example Item
      </span>
    </>
  }
  secondColumn='Status'
>
```

パラメーター名	説明
firstColumn	ポップアップの最初の列の値
secondColumn	(オプション) ポップアップの 2 列目の値
children	(オプション) ポップアップの子

StatusPopupItem
ステータスポップアップで使用されるステータス要素。**StatusPopupSection** で使用されます。

例

```
<StatusPopupSection
  firstColumn='Example'
  secondColumn='Status'
>
  <StatusPopupItem icon={healthStateMapping[MCGMetrics.state]?.icon}>
    Complete
  </StatusPopupItem>
  <StatusPopupItem icon={healthStateMapping[RGWMetrics.state]?.icon}>
     Pending
  </StatusPopupItem>
</StatusPopupSection>
```

パラメーター名	説明
value	(オプション) 表示するテキスト値
icon	(オプション) 表示するアイコン
children	子要素

概要
ダッシュボードのラッパーコンポーネントを作成します。

例

```
<Overview>
  <OverviewGrid mainCards={mainCards} leftCards={leftCards} rightCards={rightCards} />
</Overview>
```

パラメーター名	説明
className	(オプション) div のスタイルクラス
children	(オプション) ダッシュボードの要素

OverviewGrid
ダッシュボードのカード要素のグリッドを作成します。**Overview** 内で使用されます。

例

```
<Overview>
  <OverviewGrid mainCards={mainCards} leftCards={leftCards} rightCards={rightCards} />
</Overview>
```

パラメーター名	説明
mainCards	グリッド用カード

パラメーター名	説明
leftCards	(オプション) グリッドの左側のカード
rightCards	(オプション) グリッドの右側のカード

InventoryItem
インベントリーカード項目を作成します。

例

```
return (
  <InventoryItem>
    <InventoryItemTitle>{title}</InventoryItemTitle>
    <InventoryItemBody error={loadError}>
      {loaded && <InventoryItemStatus count={workerNodes.length} icon={<MonitoringIcon />} />}
    </InventoryItemBody>
  </InventoryItem>
)
```

パラメーター名	説明
children	項目内でレンダリングする要素

InventoryItemTitle
インベントリーカード項目のタイトルを作成します。**InventoryItem** 内で使用されます。

例

```
return (
  <InventoryItem>
    <InventoryItemTitle>{title}</InventoryItemTitle>
    <InventoryItemBody error={loadError}>
      {loaded && <InventoryItemStatus count={workerNodes.length} icon={<MonitoringIcon />} />}
    </InventoryItemBody>
  </InventoryItem>
)
```

パラメーター名	説明
children	タイトル内にレンダリングする要素

InventoryItemBody
インベントリーカードの本文を作成します。**InventoryCard** 内で使用され、**InventoryTitle** と使用できます。

例

```
return (
  <InventoryItem>
    <InventoryItemTitle>{title}</InventoryItemTitle>
    <InventoryItemBody error={loadError}>
      {loaded && <InventoryItemStatus count={workerNodes.length} icon={<MonitoringIcon />} />}
    </InventoryItemBody>
  </InventoryItem>
)
```

パラメーター名	説明
children	インベントリーカードまたはタイトル内でレンダリングする要素
error	div の要素

InventoryItemStatus
オプションのリンクアドレスを使用してインベントリーカードのカウントとアイコンを作成します。**InventoryItemBody** 内で使用されます。

例

```
return (
  <InventoryItem>
    <InventoryItemTitle>{title}</InventoryItemTitle>
    <InventoryItemBody error={loadError}>
      {loaded && <InventoryItemStatus count={workerNodes.length} icon={<MonitoringIcon />} />}
    </InventoryItemBody>
  </InventoryItem>
)
```

パラメーター名	説明
count	表示用カウント
icon	表示用アイコン
linkTo	(オプション) リンクアドレス

InventoryItemLoading
インベントリーカードのロード時にスケルトンコンテナーを作成します。**InventoryItem** および関連コンポーネントで使用されます。

例

```
if (loadError) {
   title = <Link to={workerNodesLink}>{t('Worker Nodes')}</Link>;
} else if (!loaded) {
  title = <><InventoryItemLoading /><Link to={workerNodesLink}>{t('Worker Nodes')}</Link></>;
}
```

```
return (
  <InventoryItem>
    <InventoryItemTitle>{title}</InventoryItemTitle>
  </InventoryItem>
)
```

useFlag
FLAGS redux 状態から指定された機能フラグを返すフック。要求された機能フラグまたは未定義のブール値を返します。

パラメーター名	説明
flag	返す機能フラグ

YAMLEditor
ホバーヘルプと補完機能を備えた基本的な遅延ロード YAML エディター。

例

```
<React.Suspense fallback={<LoadingBox />}>
  <YAMLEditor
    value={code}
  />
</React.Suspense>
```

パラメーター名	説明
value	レンダリングする yaml コードを表す文字列。
options	Monaco エディターのオプション。
minHeight	有効な CSS の高さの値における最小のエディターの高さ。
showShortcuts	エディターの上にショートカットを表示するためのブール値。
toolbarLinks	エディター上部のツールバーリンクセクションにレンダリングされる ReactNode の配列。
onChange	コード変更イベントのコールバック。
onSave	コマンド CTRL / CMD + S がトリガーされたときに呼び出されるコールバック。
ref	**{ editor?: IStandaloneCodeEditor }** への参照に反応します。**editor** プロパティーを使用すると、エディターを制御するすべてのメソッドにアクセスできます。

ResourceYAMLEditor
ホバーヘルプと補完機能を備えた Kubernetes リソース用の遅延ロード YAML エディター。このコンポーネントは YAMLEditor を使用し、その上にリソースの更新処理、アラート、保存、キャンセル、リロードボタン、アクセシビリティなどの機能を追加します。**onSave** コールバックが指定されないかぎり、リソースの更新は自動的に処理されます。**React.Suspense** コンポーネントでラップする必要があります。

例

```
<React.Suspense fallback={<LoadingBox />}>
  <ResourceYAMLEditor
    initialResource={resource}
    header="Create resource"
    onSave={(content) => updateResource(content)}
  />
</React.Suspense>
```

パラメーター名	説明
initialResource	エディターによって表示されるリソースを表す YAML/オブジェクト。この prop は、最初のレンダリング中にのみ使用されます
header	YAML エディターの上にヘッダーを追加する
onSave	Save ボタンのコールバック。これを渡すと、エディターによってリソースに対して実行されたデフォルトの更新が上書きされます

ResourceEventStream
特定のリソースに関連するイベントを表示するコンポーネント。

例

```
const [resource, loaded, loadError] = useK8sWatchResource(clusterResource);
return <ResourceEventStream resource={resource} />
```

パラメーター名	説明
resource	関連イベントを表示するオブジェクト。

usePrometheusPoll
単一のクエリーに対して Prometheus へのポーリングを設定します。クエリー応答、応答が完了したかどうかを示すブール値フラグ、および要求中または要求の後処理中に発生したエラーを含むタプルを返します。

パラメーター名	説明

パラメーター名	説明
{PrometheusEndpoint} props.endpoint	PrometheusEndpoint (ラベル、クエリー、範囲、ルール、ターゲット) のいずれか
{string} [props.query]	(オプション) Prometheus クエリー文字列。空または未定義の場合、ポーリングは開始されません。
{number} [props.delay]	(オプション) ポーリング遅延間隔 (ミリ秒)
{number} [props.endTime]	(オプション) QUERY_RANGE エンドポイントの場合、クエリー範囲の終わり
{number} [props.samples]	(オプション) QUERY_RANGE エンドポイント用
{number} [options.timespan]	(オプション) QUERY_RANGE エンドポイント用
{string} [options.namespace]	(オプション) 追加する検索パラメーター
{string} [options.timeout]	(オプション) 追加する検索パラメーター

Timestamp
タイムスタンプをレンダリングするコンポーネント。タイムスタンプは、Timestamp コンポーネントの個々のインスタンス間で同期されます。指定されたタイムスタンプは、ユーザーロケールに従ってフォーマットされます。

パラメーター名	説明
timestamp	レンダリングするタイムスタンプ。形式は、ISO 8601 (Kubernetes で使用)、エポックタイムスタンプ、または日付のインスタンスであることが期待されます。
simple	アイコンとツールチップを省略したシンプルなバージョンのコンポーネントをレンダリングします。
omitSuffix	接尾辞を省略して日付をフォーマットします。
className	コンポーネントの追加のクラス名。

useModal
モーダルを起動するためのフック。

例

```
const context: AppPage: React.FC = () => {<br/> const [launchModal] = useModal();<br/> const
onClick = () => launchModal(ModalComponent);<br/> return (<br/>   <Button onClick=
{onClick}>Launch a Modal</Button><br/> )<br/>}<br/>`
```

ActionServiceProvider
console.action/provider 拡張タイプの他のプラグインからのコントリビューションを受け取ることを可能にするコンポーネント。

例

```
  const context: ActionContext = { 'a-context-id': { dataFromDynamicPlugin } };

  ...

  <ActionServiceProvider context={context}>
    {({ actions, options, loaded }) =>
      loaded && (
        <ActionMenu actions={actions} options={options} variant={ActionMenuVariant.DROPDOWN}
/>
      )
    }
  </ActionServiceProvider>
```

パラメーター名	説明
context	contextId とオプションのプラグインデータを含むオブジェクト

NamespaceBar
namespace のドロップダウンメニューが左端にある水平ツールバーをレンダリングするコンポーネント。追加のコンポーネントを子として渡すことができ、namespace ドロップダウンの右側にレンダリングされます。このコンポーネントは、ページの上部で使用するように設計されています。k8s リソースを含むページなど、ユーザーがアクティブな namespace を変更できる必要があるページで使用する必要があります。

例

```
  const logNamespaceChange = (namespace) => console.log(`New namespace: ${namespace}`);

  ...

  <NamespaceBar onNamespaceChange={logNamespaceChange}>
    <NamespaceBarApplicationSelector />
  </NamespaceBar>
  <Page>

    ...
```

パラメーター名	説明

パラメーター名	説明
onNamespaceChange	(オプション) namespace オプションが選択されたときに実行される関数。唯一の引数として、文字列の形式で新しい namespace を受け入れます。オプションが選択されると、アクティブな namespace が自動的に更新されますが、この関数を介して追加のロジックを適用できます。namespace が変更されると、URL の namespace パラメーターが以前の namespace から新しく選択された namespace に変更されます。
isDisabled	(オプション) true に設定されている場合、namespace のドロップダウンを無効にするブール値フラグ。このオプションは namespace ドロップダウンにのみ適用され、子コンポーネントには影響しません。
children	(オプション) namespace ドロップダウンの右側にあるツールバー内にレンダリングされる追加の要素。

ErrorBoundaryFallbackPage
フルページの ErrorBoundaryFallbackPage コンポーネントを作成して、"Oh no!Something went wrong." というメッセージと、スタックトレースおよびその他の役立つデバッグ情報を表示します。これは、コンポーネントと組み合わせて使用されます。

例

```
//in ErrorBoundary component
 return (
   if (this.state.hasError) {
     return <ErrorBoundaryFallbackPage errorMessage={errorString} componentStack=
{componentStackString}
       stack={stackTraceString} title={errorString}/>;
   }

   return this.props.children;
)
```

パラメーター名	説明
errorMessage	エラーメッセージのテキスト説明
componentStack	例外のコンポーネントトレース
stack	例外のスタックトレース

パラメーター名	説明
title	エラー境界ページのヘッダーとしてレンダリングするタイトル

PerspectiveContext
非推奨: 代わりに、指定された **usePerspectiveContext** を使用してください。パースペクティブコンテキストを作成します。

パラメーター名	説明
PerspectiveContextType	アクティブなパースペクティブとセッターを含むオブジェクト

useAccessReviewAllowed
非推奨: 代わりに **@console/dynamic-plugin-sdk** の **useAccessReview** を使用してください。指定されたリソースへのユーザーアクセスに関する使用可能なステータスを指定するフック。**isAllowed** ブール値を返します。

パラメーター名	説明
resourceAttributes	アクセスレビューのリソース属性
切り替え	権限借用の詳細

useSafetyFirst
非推奨: このフックはコンソールの機能とは関係ありません。指定されたコンポーネントがアンマウントされた場合に備えて、React 状態の安全な非同期設定を保証するフック。状態値とその set 関数のペアを含む配列を返します。

パラメーター名	説明
initialState	初期状態値

7.5.3. 動的プラグインのトラブルシューティング

プラグインのロードで問題が発生した場合は、このトラブルシューティングのヒントのリストを参照してください。

- 以下のコマンドを実行して、コンソールの Operator 設定でプラグインが有効になっており、プラグイン名が出力されていることを確認します。

```
$ oc get console.operator.openshift.io cluster -o jsonpath='{.spec.plugins}'
```

  - Administrator perspective の Overview ページのステータスカードで、有効なプラグインを確認します。プラグインが最近有効になった場合は、ブラウザーを更新する必要があります。

- 次の方法で、プラグインサービスが正常であることを確認します。
  - プラグイン Pod のステータスが実行中であり、コンテナーの準備が整っていることを確認します。
  - サービスラベルセレクターが Pod と一致し、ターゲットポートが正しいことを確認します。
  - コンソール Pod またはクラスター上の別の Pod のターミナルで、サービスから **plugin-manifest.json** をカールします。
- **ConsolePlugin** リソース名 (**consolePlugin.name**) が **package.json** で使用されているプラグイン名と一致することを確認します。
- サービス名、namespace、ポート、およびパスが **ConsolePlugin** リソースで正しく宣言されていることを確認します。
- プラグインサービスが HTTPS とサービス提供証明書を使用していることを確認します。
- コンソール Pod ログで証明書または接続エラーを確認します。
- プラグインが依存する機能フラグが無効になっていないことを確認します。
- プラグインの **package.json** に一致しない **consolePlugin.dependencies** がないことを確認します。
  - これには、コンソールバージョンの依存関係または他のプラグインへの依存関係が含まれる場合があります。ブラウザーで JS コンソールをプラグインの名前でフィルタリングして、ログに記録されたメッセージを表示します。
- ナビゲーション拡張パースペクティブまたはセクション ID にタイプミスがないことを確認します。
  - プラグインはロードされている可能性がありますが、ID が正しくない場合、ナビゲーション項目が表示されません。URL を編集して、プラグインページに直接移動してみてください。
- コンソール Pod からプラグインサービスへのトラフィックをブロックしているネットワークポリシーがないことを確認します。
  - 必要に応じて、ネットワークポリシーを調整して、openshift-console namespace のコンソール Pod がサービスにリクエストを送信できるようにします。
- 開発者ツールブラウザーの **Console** タブで、ブラウザーにロードされる動的プラグインのリストを確認します。
  - **window.SERVER_FLAGS.consolePlugins** を評価して、コンソールフロントエンドの動的プラグインを確認します。

関連情報

- サービス提供証明書について

第8章 WEB 端末

8.1. WEB 端末のインストール

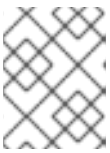
OpenShift Container Platform OperatorHub に一覧表示されている Web Terminal Operator を使用して Web 端末をインストールできます。Web 端末 Operator をインストールする際に、**DevWorkspace** CRD などのコマンドラインの設定に必要なカスタムリソース定義 (CRD) が自動的にインストールされます。Web コンソールでは、Web 端末を開く際に必要なリソースを作成します。

前提条件

- OpenShift Container Platform Web コンソールにログインしている。
- クラスター管理者パーミッションがある。

手順

1. Web コンソールの **Administrator** パースペクティブで、**Operators → OperatorHub** に移動します。
2. **Filter by keyword** ボックスを使用してカタログで Web Terminal Operator を検索し、**Web Terminal** タイルをクリックします。
3. **Web Terminal** ページで Operator についての簡単な説明を確認してから、**Install** をクリックします。
4. **Install Operator** ページで、すべてのフィールドのデフォルト値を保持します。
   - **Update Channel** メニューの **fast** オプションは、Web 端末 Operator の最新リリースのインストールを可能にします。
   - **Installation Mode** メニューの **All namespaces on the cluster**オプションにより、Operator にクラスターのすべての namespace を監視され、Operator をこれらの namespace で利用可能にすることができます。
   - **Installed Namespace** メニューの **openshift-operators** オプションは、Operator をデフォルトの **openshift-operators** namespace にインストールします。
   - **Approval Strategy** メニューの **Automatic** オプションにより、Operator への今後のアップグレードは Operator Lifecycle Manager によって自動的に処理されます。
5. **Install** をクリックします。
6. **Installed Operators** ページで、**View Operator** をクリックし、Operator が **Installed Operators** ページにリスト表示されていることを確認します。



注記

Web Terminal Operator は、DevWorkspace Operator を依存関係としてインストールします。

7. Operator のインストール後に、ページを更新し、コンソールのマストヘッドにあるコマンドラインターミナルアイコン () を確認します。

8.2. WEB 端末の設定

現在のセッションで、Web 端末のタイムアウトおよびイメージを設定できます。

8.2.1. セッションの Web 端末タイムアウトの設定

現在のセッションで、Web 端末のデフォルトタイムアウト期間を変更できます。

前提条件

- Web Terminal Operator がインストールされている OpenShift Container Platform クラスターにアクセスできる。
- Web コンソールにログインしている。

手順

1. Web 端末アイコン () をクリックします。
2. オプション: 現在のセッションの Web 端末タイムアウトを設定します。
   a. Timeout をクリックします。
   b. 表示されるフィールドにタイムアウト値を入力します。
   c. ドロップダウンリストから、タイムアウト間隔を **Seconds**、**Minutes**、**Hour**、または **Milli Seconds** から選択します。
3. オプション: Web 端末で使用するカスタムイメージを選択します。
   a. イメージをクリックします。
   b. 表示されるフィールドに、使用するイメージの URL を入力します。
4. **Start** をクリックし、指定したタイムアウト設定を使用して端末インスタンスを開始します。

8.2.2. セッション用 Web 端末イメージの設定

現在のセッションで、Web 端末のデフォルトイメージを変更できます。

前提条件

- Web Terminal Operator がインストールされている OpenShift Container Platform クラスターにアクセスできる。
- Web コンソールにログインしている。

手順

1. Web 端末アイコン () をクリックします。
2. **Image** をクリックして、Web 端末イメージの詳細設定オプションを表示します。

3. 使用するイメージの URL を入力します。

4. **Start** をクリックし、指定したイメージ設定を使用して端末インスタンスを開始します。

8.3. WEB 端末の使用

Web コンソールで組み込みコマンドラインターミナルインスタンスを起動できます。この端末のインスタンスは、**oc**、**kubectl**、**odo**、**kn**、**tkn**、**helm**、**subctl** など、クラスターと対話するための一般的な CLI ツールと共に事前にインストールされます。また、これには作業しているプロジェクトのコンテキストが含まれ、ユーザーの認証情報を使用してユーザーのログインを自動的に行います。

8.3.1. Web 端末へのアクセス

Web Terminal Operator をインストールすると、Web 端末にアクセスできます。Web 端末を初期化した後に、Web 端末で **oc**、**kubectl**、**odo**、**kn**、**tkn**、**helm**、**subctl** などの事前インストールされた CLI ツールを使用できます。ターミナルで実行したコマンドのリストからコマンドを選択して、コマンドを再実行することができます。これらのコマンドは、複数のターミナルセッション間で保持されます。Web 端末を閉じるまで、またはブラウザーウィンドウかタブを閉じるまで、Web 端末は表示されたままになります。

前提条件

- OpenShift Container Platform クラスターにアクセスでき、Web コンソールにログインしている。
- Web Terminal Operator がクラスターにインストールされている。

手順

1. Web 端末を起動するには、コンソールのマストヘッドにあるコマンドラインターミナルアイコン () をクリックします。Web 端末インスタンスが、**Command line terminal** ペインに表示されます。このインスタンスは、お使いの認証情報を使用して自動的にログインします。

2. 現在のセッションでプロジェクトが選択されていない場合は、**DevWorkspace** CR を作成する必要があるプロジェクトを **Project** ドロップダウンリストから選択します。デフォルトでは、現在のプロジェクトが選択されます。

注記

- **DevWorkspace** CR は存在しない場合にのみ作成されます。
- **openshift-terminal** プロジェクトは、クラスター管理者に使用されるデフォルトのプロジェクトです。別のプロジェクトを選択するオプションはありません。Web Terminal Operator は、DevWorkspace Operator を依存関係としてインストールします。

3. オプション: 現在のセッションの Web 端末タイムアウトを設定します。

   a. Timeout をクリックします。

   b. 表示されるフィールドにタイムアウト値を入力します。

c. ドロップダウンリストから、タイムアウト間隔を **Seconds**、**Minutes**、**Hour**、または **Milli Seconds** から選択します。

4. オプション: Web 端末で使用するカスタムイメージを選択します。

a. イメージをクリックします。

b. 表示されるフィールドに、使用するイメージの URL を入力します。

5. **Start** をクリックし、選択したプロジェクトを使用して Web 端末を初期化します。

6. + をクリックして、コンソールの Web 端末で複数のタブを開きます。

8.4. WEB 端末のトラブルシューティング

8.4.1. Web 端末とネットワークポリシー

クラスターにネットワークポリシーが設定されている場合、Web 端末の起動に失敗する可能性があります。Web 端末インスタンスを初期化するには、Web Terminal Operator は Web 端末の Pod と通信して実行中であることを確認する必要があり、OpenShift Container Platform Web コンソールはターミナル内のクラスターへの自動ログイン情報を送信する必要があります。いずれかのステップに失敗した場合には、Web 端末は初期化に失敗し、端末パネルはロード状態にあるように見えます。

この問題を回避するには、端末に使用される namespace のネットワークポリシーが **openshift-console** および **openshift-operators** namespace からの ingress を許可していることを確認してください。

8.5. WEB 端末のアンインストール

Web Terminal Operator をアンインストールしても、Operator のインストール時に作成されるカスタムリソース定義 (CRD) または管理リソースは削除されません。セキュリティー上の理由から、これらのコンポーネントは手動でアンインストールする必要があります。これらのコンポーネントを削除すると、Operator をアンインストールしても端末はアイドル状態にならないため、クラスターリソースが保存されます。

Web 端末のアンインストールは 2 つの手順で実行されます。

1. Operator のインストール時に追加された Web 端末 Operator および関連するカスタムリソース (CR) をアンインストールします。

2. Web 端末 Operator の依存関係として追加された DevWorkspace Operator とそれに関連するカスタムリソースをアンインストールします。

8.5.1. Web Terminal Operator の削除

Web 端末をアンインストールするには、Operator が使用する Web Terminal Operator とカスタムリソースを削除します。

前提条件

- クラスター管理者のパーミッションを持つ OpenShift Container Platform クラスターにアクセスできる。

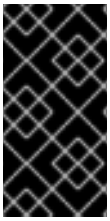
- **oc** CLI がインストールされている。

手順

1. Web コンソールの **Administrator** パースペクティブで、**Operators → Installed Operators** に移動します。
2. フィルターリストをスクロールするか、**Filter by name** ボックスにキーワードを入力して Web Terminal Operator を見つけます。
3. Web Terminal Operator の Options メニュー  をクリックし、**Uninstall Operator** を選択します。
4. **Uninstall Operator** 確認ダイアログボックスで、**Uninstall** をクリックし、Operator、Operator デプロイメント、および Pod をクラスターから削除します。この Operator は実行を停止し、更新を受信しなくなります。

8.5.2. DevWorkspace Operator の削除

Web 端末を完全にアンインストールするには、Operator が使用する DevWorkspace Operator とカスタムリソースも削除する必要があります。



重要

DevWorkspace Operator はスタンドアロン Operator であり、クラスターにインストールされている他の Operator の依存関係として必要になる場合があります。
DevWorkspace Operator が不要であることが確実な場合にのみ、以下の手順を実行してください。

前提条件

- クラスター管理者のパーミッションを持つ OpenShift Container Platform クラスターにアクセスできる。
- **oc** CLI がインストールされている。

手順

1. Operator が使用する **DevWorkspace** カスタムリソースと関連する Kubernetes オブジェクトを削除します。

```
$ oc delete devworkspaces.workspace.devfile.io --all-namespaces --all --wait
```

```
$ oc delete devworkspaceroutings.controller.devfile.io --all-namespaces --all --wait
```

警告

この手順が完了していない場合、ファイナライザーにより Operator を完全にアンインストールすることが困難になります。

2. Operator によって使用される CRD を削除します。

警告

DevWorkspace Operator は、変換 Webhook を使用するカスタムリソース定義 (CRD) を提供します。これらの CRD の削除に失敗すると、クラスターで問題が発生する可能性があります。

```
$ oc delete customresourcedefinitions.apiextensions.k8s.io
devworkspaceroutings.controller.devfile.io
```

```
$ oc delete customresourcedefinitions.apiextensions.k8s.io
devworkspaces.workspace.devfile.io
```

```
$ oc delete customresourcedefinitions.apiextensions.k8s.io
devworkspacetemplates.workspace.devfile.io
```

```
$ oc delete customresourcedefinitions.apiextensions.k8s.io
devworkspaceoperatorconfigs.controller.devfile.io
```

3. 関連するすべてのカスタムリソース定義が削除されていることを確認します。以下のコマンドを実行しても何も出力されないはずです。

```
$ oc get customresourcedefinitions.apiextensions.k8s.io | grep "devfile.io"
```

4. **devworkspace-webhook-server** デプロイメント、変更用および検証用の Webhook を削除します。

```
$ oc delete deployment/devworkspace-webhook-server -n openshift-operators
```

```
$ oc delete mutatingwebhookconfigurations controller.devfile.io
```

```
$ oc delete validatingwebhookconfigurations controller.devfile.io
```

注記

変更用および検証用の Webhook を削除せずに **devworkspace-webhook-server** デプロイメントを削除した場合、**oc exec** コマンドを使用してクラスターのコンテナーでコマンドを実行できません。Webhook を削除したら、**oc exec** コマンドを再度使用できます。

5. 残りのサービス、シークレット、および設定マップを削除します。インストールによっては、以下のコマンドに含まれる一部のリソースがクラスターに存在しない場合があります。

```
$ oc delete all --selector app.kubernetes.io/part-of=devworkspace-
operator,app.kubernetes.io/name=devworkspace-webhook-server -n openshift-operators
```

```
$ oc delete serviceaccounts devworkspace-webhook-server -n openshift-operators
```

```
$ oc delete clusterrole devworkspace-webhook-server
```

```
$ oc delete clusterrolebinding devworkspace-webhook-server
```

6. DevWorkspace Operator をアンインストールします。

   a. Web コンソールの **Administrator** パースペクティブで、**Operators → Installed Operators** に移動します。

   b. フィルターリストをスクロールするか、**Filter by name** ボックスにキーワードを入力して DevWorkspace Operator を見つけます。

   c. Operator のオプションメニュー  をクリックし、**Uninstall Operator** を選択します。

   d. **Uninstall Operator** 確認ダイアログボックスで、**Uninstall** をクリックし、Operator、Operator デプロイメント、および Pod をクラスターから削除します。この Operator は実行を停止し、更新を受信しなくなります。

第9章 OPENSHIFT CONTAINER PLATFORM の WEB コンソールの無効化

OpenShift Container Platform の Web コンソールを無効にすることができます。

9.1. 前提条件

- OpenShift Container Platform クラスターをデプロイします。

9.2. WEB コンソールの無効化

consoles.operator.openshift.io リソースを編集して Web コンソールを無効にすることができます。

- **consoles.operator.openshift.io** リソースを編集します。

```
$ oc edit consoles.operator.openshift.io cluster
```

以下の例は、変更できるリソースのパラメーターを表示しています。

```
apiVersion: operator.openshift.io/v1
kind: Console
metadata:
  name: cluster
spec:
  managementState: Removed (1)
```

(1) **managementState** パラメーター値を **Removed** に設定し、Web コンソールを無効にします。このパラメーターの他の有効な値には以下が含まれます。**Managed** ではクラスターの制御下でコンソールを有効にし、**Unmanaged** は Web コンソール管理を制御するのがユーザーであることを意味します。

第10章 WEB コンソールでのクイックスタートチュートリアルの作成

OpenShift Container Platform Web コンソールのクイックスタートチュートリアルを作成する場合は、以下のガイドラインに従って、すべてのクイックスタートで一貫したユーザーエクスペリエンスを維持するようにしてください。

10.1. クイックスタートについて

クイックスタートは、ユーザータスクに関するガイド付きチュートリアルです。Web コンソールでは、**Help** メニューでクリックスタートにアクセスできます。これらは、アプリケーション、Operator、または他の製品オファリングを使用する場合に役立ちます。

クイックスタートは、主にタスクとステップで設定されます。タスクごとに複数のステップがあり、各クイックスタートには複数のタスクがあります。以下に例を示します。

- タスク 1
  - ステップ 1
  - ステップ 2
  - ステップ 3
- タスク 2
  - ステップ 1
  - ステップ 2
  - ステップ 3
- タスク 3
  - ステップ 1
  - ステップ 2
  - ステップ 3

10.2. クイックスタートのユーザーワークフロー

既存のクイックスタートチュートリアルと対話する場合、以下が想定されるワークフローエクスペリエンスになります。

1. **Administrator** または **Developer** パースペクティブで、**Help アイコン** をクリックし、**Quick Starts** を選択します。
2. クイックスタートカードをクリックします。
3. 表示されるパネルで **Start** をクリックします。
4. 画面上の手順を実行し、**Next** をクリックします。
5. 表示される **Check your work** モジュールで質問に回答し、タスクが正常に完了したことを確認します。

a. **Yes** を選択した場合には、**Next** をクリックして次のタスクに進みます。

b. **No** を選択した場合は、タスクの手順を繰り返して作業を再度確認します。

6. 上記の手順 1 から 6 を繰り返し、クイックスタートの残りのタスクを完了します。

7. 最終タスクが完了したら、**Close** をクリックしてクイックスタートを閉じます。

10.3. クイックスタートのコンポーネント

クイックスタートは、以下のセクションで設定されます。

- **Card**: タイトル、説明、時間 (time commitment)、完了ステータスなどの、クイックスタートの基本情報を提供するカタログタイル
- **Introduction**: クイックスタートの目的およびタスクの概要
- **Task headings**: クイックスタートの各タスクのハイパーリンクタイトル
- **Check your work module**: ユーザーがクイックスタートの次のタスクに進む前に、タスクが正常に完了したことを確認するためのモジュール
- **Hints**: ユーザーによる製品の特定の機能を識別するのに役立つアニメーション
- **Buttons**
  - **Next and back buttons**: クイックスタートの各タスク内のステップおよびモジュールに移動するためのボタン
  - **Final screen buttons**: クイックスタートを閉じたり、クイックスタート内の前のタスクに戻ったり、クイックスタートをすべて表示したりするためのボタン

クイックスタートの主なコンテンツエリアには、以下のセクションが含まれます。

- **Card copy**
- **はじめに**
- **タスクの手順**
- **Modals and in-app messaging**
- **Check your work module**

10.4. クイックスタートの継続

OpenShift Container Platform では、**ConsoleQuickStart** オブジェクトで定義されるクイックスタートのカスタムリソースが導入されています。Operator および管理者は、このリソースを使用してクイックスタートをクラスターに提供できます。

前提条件

- クラスター管理者の権限があること。

手順

1. 新規のクイックスタートを作成するには、以下を実行します。

```
$ oc get -o yaml consolequickstart spring-with-s2i > my-quick-start.yaml
```

2. 以下を実行します。

```
$ oc create -f my-quick-start.yaml
```

3. 本書で説明されているガイダンスを使用して、YAML ファイルを更新します。
4. 編集を保存します。

10.4.1. クイックスタート API ドキュメントの表示

手順

- クイックスタートの API ドキュメントを確認するには、以下を実行します。

```
$ oc explain consolequickstarts
```

oc explain の使用方法についての詳細は、**oc explain -h** を実行します。

10.4.2. クイックスタートの要素からクイックスタート CR へのマッピング

このセクションでは、クイックスタートのカスタムリソース (CR) の部分を、Web コンソール内のクイックスタートのこれらが表示される場所に視覚的にマッピングする方法を説明します。

10.4.2.1. conclusion 要素

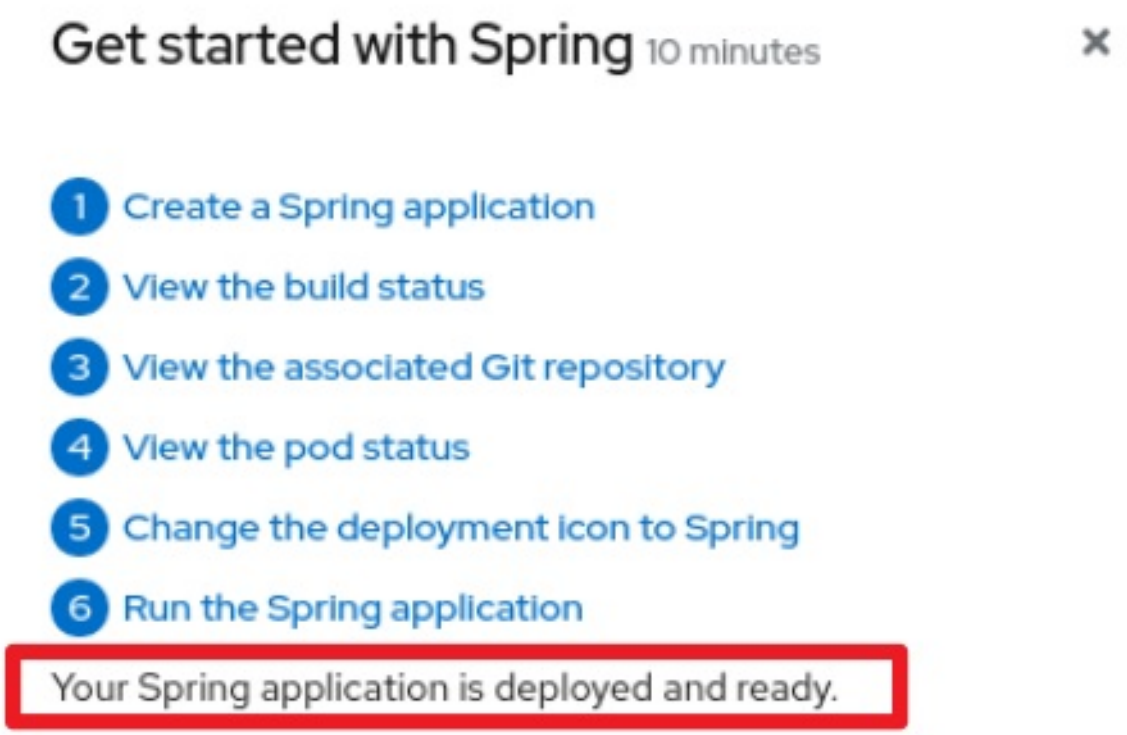
YAML ファイルの conclusion 要素の表示

```
...
summary:
  failed: Try the steps again.
  success: Your Spring application is running.
title: Run the Spring application
conclusion: >-
  Your Spring application is deployed and ready. (1)
```

(1) conclusion テキスト

Web コンソールでの conclusion 要素の表示

クイックスタートの最後のセクションに conclusion が表示されます。



10.4.2.2. description 要素

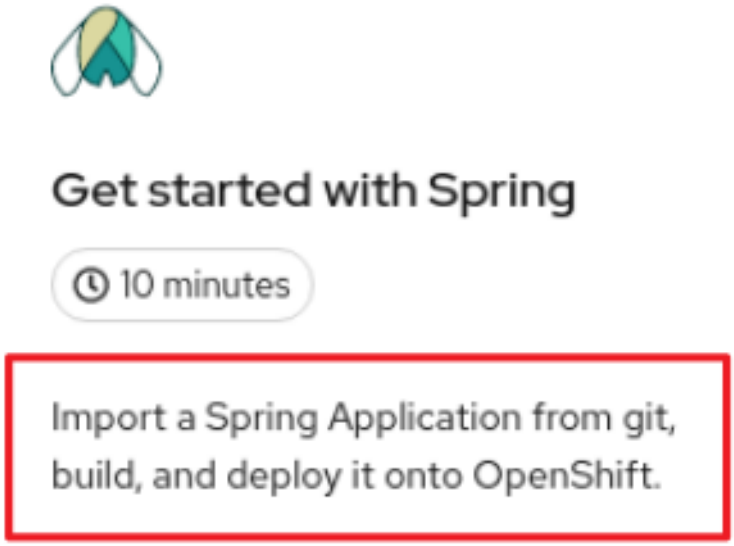
YAML ファイルでの description 要素の表示

```
apiVersion: console.openshift.io/v1
kind: ConsoleQuickStart
metadata:
  name: spring-with-s2i
spec:
  description: 'Import a Spring Application from git, build, and deploy it onto OpenShift.' 1
...
```

1 description テキスト

Web コンソールでの description 要素の表示

この description は、**Quick Starts** ページのクイックスタートの導入部分のタイルに表示されます。



10.4.2.3. displayName 要素

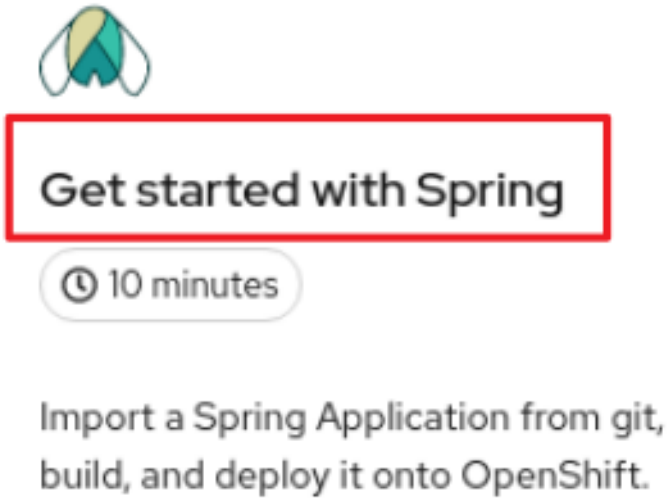
YAML ファイルの displayName 要素の表示

```
apiVersion: console.openshift.io/v1
kind: ConsoleQuickStart
metadata:
  name: spring-with-s2i
spec:
  description: 'Import a Spring Application from git, build, and deploy it onto OpenShift.'
  displayName: Get started with Spring (1)
  durationMinutes: 10
```

(1) **displayName** テキスト。

Web コンソールでの displayName 要素の表示

表示名は、**Quick Starts** ページの導入部分のタイルに表示されます。



10.4.2.4. durationMinutes 要素

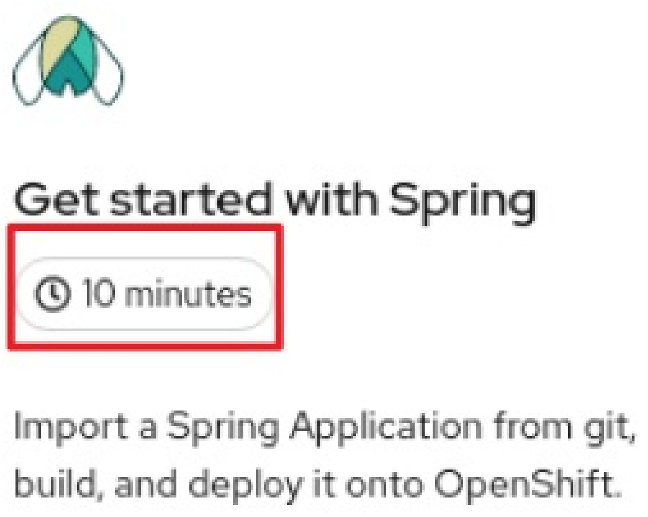
YAML ファイルでの durationMinutes 要素の表示

```
apiVersion: console.openshift.io/v1
kind: ConsoleQuickStart
metadata:
  name: spring-with-s2i
spec:
  description: 'Import a Spring Application from git, build, and deploy it onto OpenShift.'
  displayName: Get started with Spring
  durationMinutes: 10 (1)
```

(1) **durationMinutes** 値 (分単位)。この値は、クイックスタートの完了までにかかる時間を定義します。

Web コンソールでの durationMinutes 要素の表示

duration minutes 要素は、**Quick Starts** ページのクイックスタートの導入部分のタイルに表示されます。



10.4.2.5. icon 要素

YAML ファイルでの icon 要素の表示

```
...
spec:
  description: 'Import a Spring Application from git, build, and deploy it onto OpenShift.'
  displayName: Get started with Spring
  durationMinutes: 10
  icon: >-  (1)
```

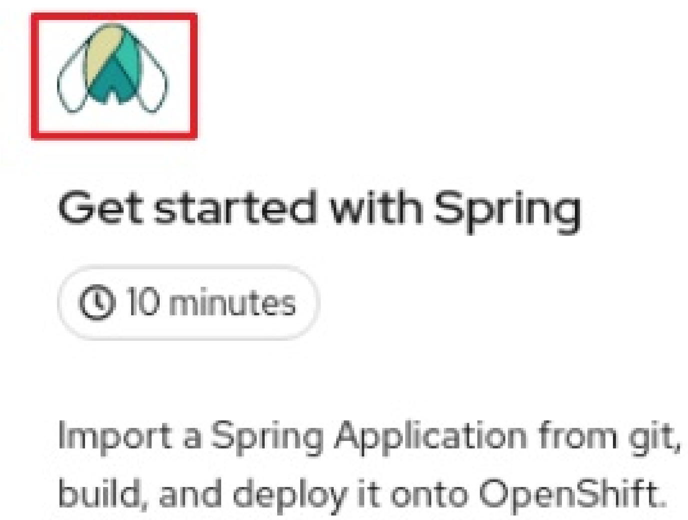

JMYXllcl8xIiBkYXRhLW5hbWU9IkxheWVyIDEiIHZpZXdCb3g9IjAgMCAxMDI0IDEwMjQiPjxkZWZzPjxz
HlsZT4uY2xzLTF7ZmlsbDojMTUzZDNjO30uY2xzLTJ7ZmlsbDojZDhkYTlkO30uY2xzLTN7ZmlsbDojNT
hjMGE4O30uY2xzLTR7ZmlsbDojZmZmO30uY2xzLTV7ZmlsbDojM2Q5MTkxO308L3N0eWxlPjwvZGV
mcz48dGl0bGU+c25vd2Ryb3BfaWNvbl9yZ2JfZGVmYXVsdDwvdGl0bGU+PHBhdGggY2xhc3M9ImNsc
y0xIiBkPSJNMTAxMi42OSw1OTNjLTExLjEyLTM4LjA3LTMxLTczLTU5LjIxLTEwMy44LTkuNS0xMS4zL
TIzLjIxLTI4LjI5LTM5LjA2LTQ3Ljk0QzgzMy41MywzNDEsNzQ1LjM3LDIzNC4xOCw2NzQsMTY4Ljk0Yy
01LTUuMjYtMTAuMjYtMTAuMzEtMTUuNjUtMTUuMDdhMjQ2LjQ5LDI0Ni40OSwwLDAsMC0zNi41NS
0yNi44LDE4Mi41LDE4Mi41LDAsMCwwLTIwLjMtMTEuNzcsMjAxLjUzLDIwMS41MywwLDAsMC00My4
xOS0xNUExNTUuMjQsMTU1LjI0LDAsMCwwLDUyOCw5NS4yYy02LjczLS42OC0xMS43NC0uODEtM
TQuMzktLjgxaDBsLTEuNjIsMC0xLjYyLDBhMTc3LjMxLDE3Ny4zLDAsMCwwLDAtMzEuNzcsMy4zNSwyMDg
uMjMsMjA4LjIzLDAsMCwwLTU2LjEyLDE3LjU2LDE4MSwxODEsMCwwLDAtMjAuMjcsMTEuNzUsMjQ
3LjQzLDI0Ny40MywwLDAsMC0zNi41NywyNi44MUMzNjAuMjUsMTU4LjYyLDM1NSwxNjMuNjgsMzUw
LDE2OWMtNzEuNzEsNjUuNjYtMTU5LjUsMTcyLTI0MC4zOSwyNzIuMjhDNzMuNzEsNDYwLjg4LDg3LDg
wLDQ3Ny44Nyw3MC41Miw0OC0ODkuMTcsNDIuMzUsNTIlLDIyLjQzLDU1NC45LDExLjMxLDU5MywuNz
IsNjI5LjJlyLTEuNzMsNjY3LjY5LDQsNzA3LjMxLDE1LDc4Mi40OSw1NS43OCw4NTkuMTIsMTE4LjkzLD
kyMy4wOWEyMiwyMiwwLDAsMCwxNS41OSw2LjUyaDEuODNsMS44My4yLTI4OC4wNSwxMi4yLTI1OS42N
EsMTEwLTc5LjU3LDE0My40OC0xNTUuNiwzMC40MDcwLTkuNDk0MkEwMi4wOC0uOWMxLjAtMDkuOWJ
uNDIsOC41NCwxMS4yNkswMC44NDEwMiAwLjU0MDMwNiwyNy01Yi4zNi40MzlgMS42NDY5NDYz
NsMTguOCwyLjYyLDQuOTUtMTguMzNjMTMuMjYtNDkuMDcsMzUuMy05MC44NSw1MC42NC0xMT
YuMTksMTUuMzQsMjUuMzQsMzcuMzgsNjcuMTIsNTAuNjQsMTE2LjE5bDUuMDMsMTguNjEuNjQuMTgyLjYyLjYxL
jYyYzU3LjItOCwxMDAuNDctMzEuNzk1MCwxNDIuNjAxMWksNC4yLTI5Mjo3Ni4yNy42M2ItNTUuNjIsNzgNMC42Mi
DkuMzgsOC4yOSxOC41NSwxMi4yLDI3LjQzLDMzLjQ5LDc2LDYyLjQyLDE0MS42OSwxNDMuNDgs
MTU1LjZsMS44MS4zLDguMzMWgxLjg5YTIyLDIyLDAsMCwwLDE1LjU5LTYuNTJjNjMuMTUtNjQsMTAzLjk1
LTE0MC42Myw0MDMyZ6LTYuMTAtNSMjNwMzMuMzMsNjA2MjAwNS4MTNuNTAtMTAuNjE4My0MjQyMTAxMi4zO
Sw1OTNaIi8+PHBhdGggY2xhc3M9ImNscy0yIiBkPSJNMzY0LjE1LDE4NS4yM2MxNy44OS0xNi40LDM0LjctMzAuMTUsNDAuNDcsMzUuMzYlM

```
0LjctMzAuMTUsNDkuNzctNDAuMTFhMjEyLDIxMiwwLDAsMSw2NS45My0yNS43M0ExOTgsMTk4LDA
sMCwxLDUxMiwxMTYuMjdhMTk2LjExLDE5Ni4xMSwwLDAsMSwzMiwzLjFjNC41LjkxLDkuMzYsMi4wN
wxNC41MywzLjUyLDYwLjQxLDIwLjQ4LDg0LjkyLDkxLjA1LTQ3LjQ0LDI0OC4wNi0yOC43NSwzNC4x
Mi0xNDAuNywxOTQuODQtMTg0LjY2LDI2OC40MmE2MzAuODYsNjMwLjg2LDAsMCwwLTMzLjIyLD
U4LjMyQzI3Niw2NTUuMzQsMjY1LjQsNTk4LDI2NS40LDUyMC4yOSwyNjUuNCwzNDAuNjEsMzExLjY
5LDI0MC43NCwzNjQuMTUsMTg1LjIzWiIvPjxwYXRoIGNsYXNzPSJjbHMtMyIgZD0iTTUyNy41NCwzO
DQuODNjODQuMDYtOTkuNywxMTYuMDYtMTc3LjI4LDk1LjIyLTIzMC43NCwxMS42Miw4LjY5LDI0LD
E5LjIsMzcuMDYsMzEuMTMsNTIuNDgsNTUuNSw5OC43OCwxNTUuMzgsOTguNzgsMzM1LjA3LDAs
NzcuNzEtMTAuNiwxMzUuMDUtMjcuNzcsMTc3LjRhNjI4LjczLDYyOC43MywwLDAsMC0zMy4yMy01OC
4zMmMtMzktNjUuMjYtMTMxLjQ1LTE5OS0xNzEuOTMtMjUyLjI3QzUyNi4zMywzODYuMjksNTI3LDM4
NS41Miw1MjcuNTQsMzg0LjgzWiIvPjxwYXRoIGNsYXNzPSJjbHMtNCIgZD0iTTEzNC41OCw5MDguM
DdoLS4wNmEuMzkuMzksMCwwLDEtLjI3LS4xMWMtMTE5LjUyLTEyMS4wNy0xNTUtMjg3LjQtNDcuN
TQtNDA0LjU4LDM0LjYzLTQxLjE0LDEyMC0xNTEuNiwyMDIuNzUtMjQyLjE5LTMuMTMsNy02LjEyLDE
0LjI1LTguOTIsMjEuNjktMjQuMzQsNjQuNDUtMzYuNjcsMTQ0LjMyLTM2LjY3LDIzNy40MSwwLDU2LjU
zLDUuNTgsMTA2LDE2LjU5LDE0Ny4xNEEzMDcuNDksMzA3LjQ5LDAsMCwwLDI4MC45MSw3MjND
MjM3LDgxNi44OCwyMTYuOTMsODkzLjkzLDEzNC41OCw5MDguMDdaIi8+PHBhdGggY2xhc3M9ImN
scy01IiBkPSJNNTgzLjQzLDgxMy43OUM1NjAuMTgsNzI3LjcyLDUxMiw2NjQuMTUsNTEyLDY2NC4xN
XMtNDguMTcsNjMuNTctNzEuNDMsMTQ5LjY0Yy00OC40NS02Ljc0LTEwMC45MS0yNy41Mi0xMzUu
NjYtOTEuMThhNjQ1LjY4LDY0NS42OCwwLDAsMSwzOS41Ny03MS41NGwuMjEtLjMyLjE5LS4zM2M2M
zOC02My42MywxMjYuNC0xOTEuMzcsMTY3LjEyLTI0NS42Niw0MC43MSw1NC4yOCwxMjkuMSwxO
DIsMTY3LjEyLDI0NS42NmwuMTkuMzMuMjEuMzJhNjQ1LjY4LDY0NS42OCwwLDAsMSwzOS41Nyw
3MS41NEM2ODQuMzQsNzg2LjI3LDYzMS44OCw4MDcuMDUsNTgzLjQzLDgxMy43OVoiLz48cGF0a
CBjbGFzcz0iY2xzLTQiIGQ9Ik04ODkuNzUsOTA4YS4zOS4zOSwwLDAsMS0uMjcuMTFoLS4wNkM4M
DcuMDcsODkzLjkzLDc4Nyw4MTYuODgsNzQzLjA5LDcyM2EzMDcuNDksMzA3LjQ5LDAsMCwwLDIwL
jQ1LTU1LjU0YzExLTQxLjExLDE2LjU5LTkwLjYxLDE2LjU5LTE0Ny4xNCwwLTkzLjA4LTEyLjMzLTE3M
y0zNi42Ni0yMzcuNHEtNC4yMi0xMS4xNi04LjkzLTIxLjdjODIuNzUsOTAuNTksMTY4LjEyLDIwMS4wNS
wyMDIuNzUsMjQyLjE5QzEwNDQuNzksNjIwLjU2LDEwMDkuMjcsNzg2Ljg5LDg4OS43NSw5MDhaIi8+
PC9zdmc+Cg==
...
```


1 base64 値として定義される icon。

Web コンソールでの icon 要素の表示

このアイコンは、**Quick Starts** ページのクイックスタートの導入部分のタイルに表示されます。



10.4.2.6. introduction 要素

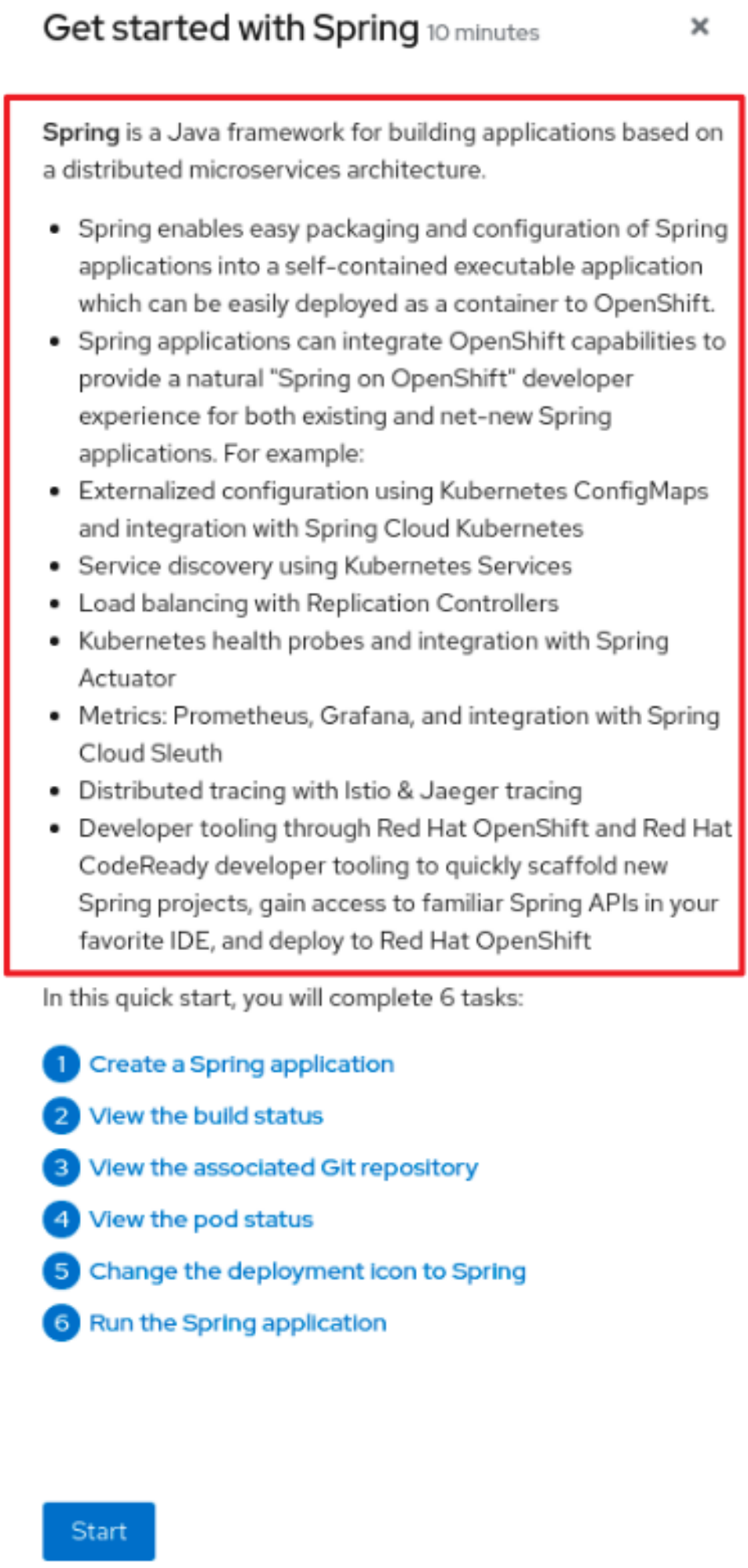
YAML ファイルでの introduction 要素の表示

```
...
  introduction: >- (1)
    **Spring** is a Java framework for building applications based on a distributed microservices architecture.

    - Spring enables easy packaging and configuration of Spring applications into a self-contained executable application which can be easily deployed as a container to OpenShift.

    - Spring applications can integrate OpenShift capabilities to provide a natural "Spring on OpenShift" developer experience for both existing and net-new Spring applications. For example:

    - Externalized configuration using Kubernetes ConfigMaps and integration with Spring Cloud Kubernetes

    - Service discovery using Kubernetes Services

    - Load balancing with Replication Controllers

    - Kubernetes health probes and integration with Spring Actuator

    - Metrics: Prometheus, Grafana, and integration with Spring Cloud Sleuth

    - Distributed tracing with Istio & Jaeger tracing

    - Developer tooling through Red Hat OpenShift and Red Hat CodeReady developer tooling to quickly scaffold new Spring projects, gain access to familiar Spring APIs in your favorite IDE, and deploy to Red Hat OpenShift
...
```

(1) introduction は、クイックスタートを紹介し、この中でタスクをリスト表示します。

Web コンソールでの introduction 要素の表示

クイックスタートカードをクリックすると、その中のサイドパネルスライドがクイックスタートを開始し、この中でタスクをリスト表示します。


Get started with Spring 10 minutes
Spring is a Java framework for building applications based on a distributed microservices architecture.
Spring enables easy packaging and configuration of Spring applications into a self-contained executable application which can be easily deployed as a container to OpenShift.
Spring applications can integrate OpenShift capabilities to provide a natural "Spring on OpenShift" developer experience for both existing and net-new Spring applications. For example:
Externalized configuration using Kubernetes ConfigMaps and integration with Spring Cloud Kubernetes
Service discovery using Kubernetes Services
Load balancing with Replication Controllers
Kubernetes health probes and integration with Spring Actuator
Metrics: Prometheus, Grafana, and integration with Spring Cloud Sleuth
Distributed tracing with Istio & Jaeger tracing
Developer tooling through Red Hat OpenShift and Red Hat CodeReady developer tooling to quickly scaffold new Spring projects, gain access to familiar Spring APIs in your favorite IDE, and deploy to Red Hat OpenShift
In this quick start, you will complete 6 tasks:
1 Create a Spring application
2 View the build status
3 View the associated Git repository
4 View the pod status
5 Change the deployment icon to Spring
6 Run the Spring application
Start

10.4.3. カスタムアイコンのクイックスタートへの追加

デフォルトのアイコンがすべてのクイックスタートについて指定されます。独自のカスタムアイコンを指定することができます。

手順

1. カスタムアイコンとして使用する **.svg** ファイルを見つけます。
2. オンラインツールを使用して、テキストを base64 に変換 します。
3. YAML ファイルに **icon: >-** を追加し、次の行に **data:image/svg+xml;base64** とそれに続く base64 変換からの出力が含まれます。以下に例を示します。

```
icon: >-


ciIHJvbGU9ImltZyIgdmlld.
```

10.4.4. クイックスタートへのアクセス制限

すべてのユーザーがすべてのクイックスタートを利用できる訳ではありません。YAML ファイルの **accessReviewResources** セクションでは、クイックスタートへのアクセスを制限する機能を提供します。

ユーザーに **HelmChartRepository** リソースを作成する機能がある場合にのみクイックスタートにアクセスできるようにするには、以下の設定を使用します。

```
accessReviewResources:
  - group: helm.openshift.io
    resource: helmchartrepositories
    verb: create
```

ユーザーに Operator グループおよびパッケージマニフェストをリスト表示し、Operator をインストールできる機能がある場合にのみクイックスタートにアクセスできるようにするには、以下の設定を使用します。

```
accessReviewResources:
  - group: operators.coreos.com
    resource: operatorgroups
    verb: list
  - group: packages.operators.coreos.com
    resource: packagemanifests
    verb: list
```

10.4.5. その他のクイックスタートのリンク

手順

- YAML ファイルの **nextQuickStart** セクションで、リンクするクイックスタートの **name** (**displayName** ではない) を指定します。以下に例を示します。

```
nextQuickStart:
  - add-healthchecks
```

10.4.6. クイックスタートでサポートされるタグ

これらのタグを使用して、クイックスタートコンテンツをマークダウンで記述します。マークダウンが HTML に変換されます。

タグ	説明
'b',	太字テキストを定義します。
'img',	イメージを埋め込みます。
'i',	イタリックテキストを定義します。
'strike',	取り消し線 (strike-through) テキストを定義します。
's',	小さいテキストを定義します。
'del',	小さいテキストを定義します。
'em',	エミュレートしたテキストを定義します。
'strong',	重要なテキストを定義します。
'a',	アンカータグを定義します。
'p',	段落テキストを定義します。
'h1',	レベル 1 の見出しを定義します。
'h2',	レベル 2 の見出しを定義します。
'h3',	レベル 3 の見出しを定義します。
'h4',	レベル 4 の見出しを定義します。
'ul',	順序のないリストを定義します。
'ol',	順序付きのリストを定義します。
'li',	リスト項目を定義します。
'code',	テキストをコードとして定義します。

タグ	説明
'pre',	事前にフォーマットされたテキストのブロックを定義します。
'button',	テキストでボタンを定義します。

10.4.7. クイックスタートでのマークダウン参照の強調表示

ハイライトまたはヒントの機能により、クイックスタートに Web コンソールのコンポーネントを強調表示したり、アニメーションで表示できるリンクを追加することができます。

マークダウン構文には以下が含まれます。

- ブラケット付きリンクテキスト
- **highlight** のキーワードと、それに続くアニメーションで表示する要素の ID

10.4.7.1. パースペクティブスイッチャー

```
[Perspective switcher]{{highlight qs-perspective-switcher}}
```

10.4.7.2. Administrator パースペクティブのナビゲーションリンク

```
[Home]{{highlight qs-nav-home}}
[Operators]{{highlight qs-nav-operators}}
[Workloads]{{highlight qs-nav-workloads}}
[Serverless]{{highlight qs-nav-serverless}}
[Networking]{{highlight qs-nav-networking}}
[Storage]{{highlight qs-nav-storage}}
[Service catalog]{{highlight qs-nav-servicecatalog}}
[Compute]{{highlight qs-nav-compute}}
[User management]{{highlight qs-nav-usermanagement}}
[Administration]{{highlight qs-nav-administration}}
```

10.4.7.3. Developer パースペクティブのナビゲーションリンク

```
[Add]{{highlight qs-nav-add}}
[Topology]{{highlight qs-nav-topology}}
[Search]{{highlight qs-nav-search}}
[Project]{{highlight qs-nav-project}}
[Helm]{{highlight qs-nav-helm}}
```

10.4.7.4. 一般的なナビゲーションリンク

```
[Builds]{{highlight qs-nav-builds}}
[Pipelines]{{highlight qs-nav-pipelines}}
[Monitoring]{{highlight qs-nav-monitoring}}
```

10.4.7.5. マストヘッドリンク

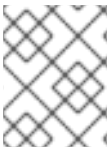
```
[CloudShell]{{highlight qs-masthead-cloudshell}}
[Utility Menu]{{highlight qs-masthead-utilitymenu}}
[User Menu]{{highlight qs-masthead-usermenu}}
[Applications]{{highlight qs-masthead-applications}}
[Import]{{highlight qs-masthead-import}}
[Help]{{highlight qs-masthead-help}}
[Notifications]{{highlight qs-masthead-notifications}}
```

10.4.8. コードスニペットのマークダウン参照

CLI コードスニペットがクイックスタートに含まれる場合に、これを Web コンソールから実行できるようになりました。この機能を使用するには、まず Web Terminal Operator をインストールする必要があります。Web 端末で実行する Web 端末およびコードスニペットの各種アクションは、Web Terminal Operator をインストールしない場合は表示されません。または、Web Terminal Operator がインストールされているかどうかに関係なく、コードスニペットをクリップボードにコピーできます。

10.4.8.1. インラインコードスニペットの構文

```
`code block`{{copy}}
`code block`{{execute}}
```



注記

execute 構文が使用される場合、Web Terminal Operator がインストールされているかどうかに関係なく、**Copy to clipboard** アクションが表示されます。

10.4.8.2. 複数行コードスニペットの構文

```
```
multi line code block
```{{copy}}

```
multi line code block
```{{execute}}
```

10.5. クイックスタートのコンテンツガイドライン

10.5.1. Card copy

クイックスタートカードのタイトルと説明をカスタマイズできますが、ステータスをカスタマイズすることはできません。

- 説明を 1 または 2 文にまとめます。
- 動詞から始め、ユーザーの目的を伝えるものにします。正しい例:

  > Create a serverless application.

10.5.2. はじめに

クイックスタートカードをクリックすると、その中のサイドパネルスライドがクイックスタートを開始し、この中でタスクをリスト表示します。

- 導入部分のコンテンツを明確に、簡潔に、説明的に、また読みやすいものにします。
- クイックスタートの結果について示します。ユーザーは、クイックスタートを開始する前にその目的を理解している必要があります。
- ユーザーに (クイックスタートではなく) 実行するアクションを示します。
  - **正しい例**:

    > In this quick start, you will deploy a sample application to {product-title}.

  - **正しくない例**:

    > This quick start shows you how to deploy a sample application to {product-title}.

- 導入部分は、機能の複雑さに応じて最大 4 から 5 つの文章で設定される必要があります。導入部分が長いとユーザーを圧倒してしまう可能性があります。
- 導入部分の後にクイックスタートのタスクをリスト表示し、各タスクのリストについてはそれぞれ動詞で始まります。タスクが追加または削除されるたびにコピーを更新する必要が生じるため、タスクの数は指定しないでください。
  - **正しい例**:

    > Tasks to complete: Create a serverless application; Connect an event source; Force a new revision

  - **正しくない例**:

    > You will complete these 3 tasks: Creating a serverless application; Connecting an event source; Forcing a new revision

10.5.3. タスクの手順

ユーザーが **Start** をクリックした後に、クイックスタートを完了するために実行する必要のあるリストのステップが表示されます。

タスクのステップを作成する場合は、以下の一般的なガイドラインに従います。

- ボタンとラベルには Click を使用します。チェックボックス、ラジオボタン、およびドロップダウンメニューには Select を使用します。
- Click on ではなく Click を使用します。
  - **正しい例**:

    > Click OK.

  - **正しくない例**:

> Click on the OK button.

- ユーザーに対し、**Administrator** パースペクティブと **Developer** パースペクティブ間を移動する方法を示します。ユーザーがすでに適切なパースペクティブにいると思われる場合でも、ユーザーが適切なパースペクティブに確実に移動していることを確認できるように、ユーザーに対してパースペクティブへの移動方法を示します。
  例 :

> Enter the Developer perspective: In the main navigation, click the dropdown menu and select Developer.
> Enter the Administrator perspective: In the main navigation, click the dropdown menu and select Admin.

- Location, action の構造を使用します。ユーザーに対し、実行すべきアクションを示す前に移動する必要のある場所を示します。
  - **正しい例**:

> In the node.js deployment, hover over the icon.

  - **正しくない例**:

> Hover over the icon in the node.js deployment.

- 製品の用語については一貫して大文字表記を使用します。
- メニュータイプまたはリストをドロップダウンとして指定する必要がある場合は、ハイフンなしで dropdown と 1 単語で記述します。
- ユーザーアクションと製品機能に関する追加情報を明確に区別します。
  - **ユーザーアクション**:

> Change the time range of the dashboard by clicking the dropdown menu and selecting time range.

  - **追加情報**:

> To look at data in a specific time frame, you can change the time range of the dashboard.

- 右上隅でアイコンをクリックなどの指示文は使用しないようにしてください。指示文は UI レイアウトが変更されるたびに古くなります。また、デスクトップユーザー向けの指示は、異なるサイズの画面を使用するユーザーには適切ではない場合があります。代わりに、名前を使用して内容を特定できるようにします。
  - **正しい例**:

> In the navigation menu, click Settings.

  - **正しくない例**:

> In the left-hand menu, click Settings.

- "Click the gray circle (灰色の円をクリック)" など、色のみで項目を特定することはしないでください。色の識別子は、視力制限のあるユーザー、とくに色覚異常のユーザーの役に立ちません。代わりに、ボタンコピーのような名前またはコピーを使用して項目を特定します。
  - **正しい例**:

    > The success message indicates a connection.

  - **正しくない例**:

    > The message with a green icon indicates a connection.

- 二人称を使用で統一します。
  - **正しい例**:

    > Set up your environment.

  - **正しくない例**:

    > Let's set up our environment.

10.5.4. 作業モジュールの確認

- ユーザーがステップを完了すると、**Check your work** モジュールが表示されます。このモジュールは、ユーザーに対してステップの結果についての質問への yes または no の回答を求めるプロンプトを出し、ユーザーはここで作業を確認することができます。このモジュールでは、1 つの yes または no の回答を求める質問のみ作成する必要があります。
  - ユーザーが **Yes** と回答すると、チェックマークが表示されます。
  - ユーザーが **No** と回答すると、必要に応じて関連するドキュメントへのリンクと共にエラーメッセージが表示されます。その後、ユーザーは戻ってやり直すことができます。

10.5.5. UI 要素のフォーマット

以下のガイドラインを使用して UI 要素をフォーマットします。

- ボタン、ドロップダウン、タブ、フィールド、その他の UI コントロールのコピー: UI に表示されるようにコピーを作成し、これを太字にします。
- ページ、ウィンドウ、およびパネル名を含むその他のすべての UI 要素: UI に表示されるようにコピーを作成し、これを太字にします。
- コードまたはユーザーが入力するテキスト: 等幅フォントを使用します。
- ヒント: ナビゲーションまたはマストヘッド要素へのヒントが含まれる場合は、リンクのようにテキストのスタイルを変更します。
- CLI コマンド: 等幅フォントを使用します。
- 実行中のテキストで、コマンドに太字の等幅フォントを使用します。
- パラメーターまたはオプションが可変値である場合、イタリック体の等幅フォントを使用します。

- パラメーターに太字の等幅フォントを使用し、オプションに等幅フォントを使用します。

10.6. 関連情報

- 音声とトーンの要件については、PatternFly のブランド音声およびトーンのガイドライン について参照してください。
- 他の UX コンテンツのガイダンスは、PatternFly の UX の作成ガイド (writing style guide) のすべての分野を参照してください。